

## 4-2 行動科学

### 研究・教育活動の概要と特色

1983年に設置された行動科学研究室は、①社会学をはじめ、心理学・言語学・人類学・政治学・経済学など多くの専門分野と対象領域を共有すること、②人間行動や社会現象の解明に科学的方法、とりわけ数理的・計量的方法を適用すること、の2点を掲げ研究・教育を実践してきた。過去5年に関しては、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（2008年度～2012年度）、「学校生活と社会に対する高校生の意識—第1回～第4回調査」（2009年度～2012年度）、「現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ」（2008年度～2010年度）、「グローバリゼーションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動に関する融合的研究」（2011年度～2012年度）、「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」（2012年度～）、「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」（2013年度～）など、本研究室が推進してきた行動科学的手法をより広く適用、発信する機会に恵まれた。

上記の調査研究プロジェクト等を通じて、教員はじめ、大学院生や学生は、社会階層、階層意識、外国人住民に対する意識、教育など、さまざまな社会事象に数理・計量的アプローチを試みている。数理・計量的研究の専門家を揃えた講座の研究・教育体制は全国的にも高い評価を得ており、本研究室の創設者である西田春彦教授の描いた「東北に数理・計量社会学のメッカを作る」という夢が現実のものとなりつつある。

なお、2011年4月に永吉希久子が准教授として就任した。2014年10月に、川嶋伸佳助教が京都文教大学に専任講師として転出した。また、2015年4月に大井慈郎が助教として就任した。

### I 組織

#### 1 教員数（2015年5月20日現在）

教授：2

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：佐藤嘉倫、木村邦博

准教授：浜田 宏、永吉希久子

助教：大井慈郎

## 2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
48	8	14	5	1

## 3 修了生・卒業生数（2010～2015年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	11	5	0
11	12	4	2
12	13	3	5(内満期退学者2)
13	11	3	3
14	17	2	1
計	64	17	11

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	2	0	2
12	3	0	3
13	3	0	3
14	2	1	3
計	8	0	11

## 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

塩谷芳也、2011年度、『職業威信尺度と階層的地位志向—ミクロな個人が持つ職業的地位認知に着目して—』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・正村俊之、准教授・浜田宏

林雅秀、2011年度、『社会関係が森林管理行動に与える影響』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

チハヤ ダ シルヴァ ギリエルメ ケンジ、2012年度、『Assortative Mating in 20th Century China: The Cultural Revolution, Social Transformation and Placement in Marriage Markets』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、准教授・下夷美幸、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

余田翔平、2012年度、『家族構造と不平等の形成—ひとり親世帯出身者のライフコースに関する計量的研究』

審査委員：教授・木村邦博（主査）、教授・佐藤嘉倫、教授・下夷美幸、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子、准教授・辻本昌弘

伊佐（門間）由記子、2012年度、『地域コミュニティとしての商店街—ソーシャル・キャピタルの視点から』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

Md. Shahidul Islam Sarker、2013年度、『The Impact of Socio-Cultural Factors on Dropout Rates for Girls at the Secondary School Level in Bangladesh』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、教授・下夷美幸、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子

稲垣佑典、2013年度、『信頼生成過程の検討による「信頼の置き放ち理論」再考—個人と地域コミュニティとの関係性に着目して—』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子、准教授・辻本昌弘

吉良洋輔、2013年度、『複数均衡としての社会規範—繰り返しゲームにおける均衡精緻化と協力行動—』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、准教授・浜田

宏、准教授・永吉希久子、准教授・辻本昌弘  
 大林真也、2014年度、『流動的關係における協力と集団変化の動的メカニズムの解明』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・木村邦博、准教授・浜田宏、准教授・永吉希久子、准教授・辻本昌弘

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	9	1	7	2	19
11	14	3	6	8	31
12	6	4	0	1	11
13	2	0	0	1	3
14	4	1	3	3	11
15	4	0	0	0	4
計	33	8	16	15	72

\* 2015年度は5月20までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

\* 2011年度までは研究室所属の研究員等を含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	17	12	2	0	31
11	2	20	5	0	27
12	12	14	9	0	35
13	7	8	2	0	17
14	11	10	4	2	27
15	0	0	0	0	0
計	47	54	20	0	121

\* 2014年度は7月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

\* 2011年度までは研究室所属の研究員等を含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

[朝岡誠] (2005.4~2014.3)

\* 朝岡誠、「ワンステップ内で伝わる評判の効果」『理論と方法』26 巻 1 号、pp. 17-29 頁、2011 年。

[安達智史] (2010.4~2011.6)

\* 安達智史、「ブリティッシュネスの解体と再想像—ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」『社会学年報』、39 号、pp51-62、2010 年

\* 安達智史、「新労働党の『テロリズム防止』政策の批判的検討——ポスト・テロ時代の社会統合について」『フォーラム現代社会学』10 号、pp135-147、2011 年

\* 安達智史、「フランスとイギリスにおける社会統合の比較——伝統・政治・実践に着目して」『コロキウム』6 号、pp.74-92、2011 年

\* 安達智史、「グローバル化時代における社会統合政策について——フランスとイギリスのスカーフ論争の比較を通して」『社会学研究』89 号、pp.85-109、2011 年

Adachi, Satoshi, “Reflexive Modernity and Young Muslims: Identity Management in a Diverse Area in the UK,” in Kimura Kunihiro ed., *Minorities and Diversity*, Australia: Trans Pacific Press, 83-99, 2011.

[井出知之] (2007.4~2012.3)

\* 井出知之、「社会階層論における政治意識—社会構造と政治変動」『選挙研究』27 巻 1 号、pp.72-84、2011 年

井出知之・村瀬洋一、「第 7 章 社会階層と政治関与—社会的地位の効果は否定できるか」盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編『日本の社会階層とそのメカニズム』白桃書房、pp.185-224、2011 年

[稲垣佑典] (2007.4~2013.3)

稲垣佑典、「社会ネットワーク的アプローチによる転職と階層構造の分析」『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ— 第 1 分冊 社会階層・社会移動』科学研究費補助金 基盤研究 (A) 研究成果報告書 (課題研究番号:20243029)、pp.211-222、2011 年

\* 稲垣佑典、「「絆」は復旧を促進したか——東日本大震災後の地域復旧とソーシャル・キャピタルの関係」、『文化』、第 76 巻 第 1・2 号、pp.78-98、2012 年

Inagaki, Yusuke “The Power of Kizuna: Did Social Capital Promote Recovery

from the Great East Japan Earthquake?” , *CSSI Working Paper Series*, pp.1-8, 2012.

[大林真也] (2010.4~2015.3)

\* 大林真也、「流動的集団における助け合いのメカニズム：経験的研究と数理的研究によるアプローチ」『社会学評論』、64(2): 240-56, 2013.

\* Kandori, Michihiro and Obayashi Shinya, 2014, “Labor Union Members Play an OLG Repeated Game,” *Proceedings of the National Academic Science* 111(supplement3): 10802-9

吉良洋輔・大林真也、2014、「第2章 被災地における利他的活動はどうだったか：調査結果に見る仙台市民のボランティア活動・節電行動」、河村和徳著『東日本大震災と地方自治：復旧・復興における人々の意識と行政の課題』ぎょうせい、pp. 34-49.

大林真也（訳）、2014、「第6章 コールマン『社会理論・社会調査・行為の理論』」佐藤嘉倫・小林盾編『リーディングス合理的選択理論—家族・組織・環境問題』勁草書房、ページ未定（2014年10月刊行予定）

大林真也「集団の拡大による集合財の自発的供給：集団評判効果の導入」『理論と方法』、2015（印刷中）

大林真也「集団評判効果を通じた協力的制度の発生：東京管理職ユニオンの事例から」『理論と方法』、2015（印刷中）

大林真也「数理モデルによる経験的な社会現象の説明」『理論と方法』、2015（印刷中）

[金澤悠介] (2005.4~2013.3)

ケン・ビンモア著、海野道郎・金澤悠介（訳）、『ゲーム理論（一冊でわかる）』岩波書店、（原著 Binmore, Ken. 2007. *Game Theory: A Very Short Introduction*. Oxford University Press.）、2010年

金澤悠介、「第12章 2つの質的変数の関連を見るII：関連係数」廣瀬毅士・寺島拓幸（共編著）、『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年

\* 椎名久美子・當山明華・デメジャン・アドレット・木村拓也・吉村幸・倉元直樹・金澤悠介、「個別大学のアドミッションセンターで入試研究を行う上での問題点の認識及び解決策の共有化について(2) — 平成

20～21 年度『個別大学アドミッションセンター教員を中心とする大学入試研究会発表要旨集』『大学入試センター研究紀要』、39 号、2010 年

\* 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系大学の量的拡大に伴う大学入試設計の問題」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5 号、2010 年

\* 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系大学の入試構造に見る高大接続問題」『大学入試研究ジャーナル』、21 巻、49-57、2011 年

\* 金澤悠介・朝岡誠・堀内史朗・関口卓也・中井豊、「エージェント・ベースト・モデルの方法と社会学におけるその展開」『理論と方法』、20 巻、pp.149-159、2011 年

山口和範・金澤悠介．2011．「社会情報教育研究センターによる全カリオンデマンド授業」『大学教育フォーラム』16：61-63.

金澤悠介、「Column 岩手県 暮らしと人間関係のアンケート」金井雅之・小林盾・渡邊大輔（編）『社会調査の応用—量的調査編：社会調査士 E・G 科目対応』弘文堂、2012 年

\* 塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏、「ビネット調査による階層帰属メカニズムの検討」『理論と方法』、7: 243-258、2012 年

[鎌田拓馬]（2012.4～）

鎌田拓馬（訳）. 第 2 章 シェリング「人種乖離のダイナミックモデル」. 佐藤嘉倫・小林盾編. 『リーディングス合理的選択論——家族・組織・環境問題』. 勁草書房., ページ未定（2014 年 10 月刊行予定）

\* Takuma Kamada and Hajime Katayama. “Team Performance and Within-team Salary Disparity: an Analysis of Nippon Baseball,” *Economics Bulletin*, 34(1), 144-151, 2014

[川嶋伸佳]（2011.4～2012.3）

\* 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「社会的な不平等とマイクロ公正感：不公正感受性の効果」『法と心理』、11 巻、pp.47-57、2011 年

Kawashima, N, “Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms,” K.Ohuchi and N. Asai eds. *Inequality, Discrimination, and Conflict in*

*Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*. Melbourne: Transpacific Press, pp.22-40, 2011.

\* 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子、「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」『社会心理学研究』、27 卷、pp.63-74、2012 年

[吉良洋輔] (2009.4~2014.3)

河村和徳・吉良洋輔、「第 1 章 交渉参加・合併枠組みと市町村合併」河村和徳著『市町村合併をめぐる政治意識と地方選挙』、木鐸社、2010 年

\* 吉良洋輔・河村和徳、「ゲーム理論による市町村合併定式化の試み」『公共選択の研究』、56 号、pp.31-47、2011 年

\* 吉良洋輔、「なぜコミュニケーションは社会的ジレンマを解決させるのか？—繰り返し N 人囚人のジレンマの均衡精緻化—」『理論と方法』、53 号、pp.107-124、2013

[Sarker, MD. Shahidul Islam] (2007.4~2014.3)

\* Shahidul, S.M. “Household Decision-Making Process: It’s effect on School Dropout Behavior for Girls in the Secondary School Level in Bangladesh,” *International Education Studies*, Vol 6, No 1, 132-141, 2012

\* S.M. Shahidul, “Marriage Market and an Effect on Girls’ School Dropout in Bangladesh,” *Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences*, Vol 4, No 2, 552-564, 2012

[塩谷芳也] (2005.4~2011.9)

\* 塩谷芳也、「職業的地位の構成イメージと地位志向—職業の社会的地位の全体像に関する認知に着目して」『理論と方法』、47 号、pp.65-79、2010 年

\* 塩谷芳也、「高校生の性行動とセルフ・エスティーム」『社会学研究』、88 号、1-26、2010 年

Shiotani, Yoshiya “The Effect of Social Stratification Image on Status

Orientation,” *Studies of Social Stratification in Contemporary Japan: From the Perspective of Micro-Macro Linkages 3 Social Consciousness and lifestyle*, The 2005 SSM Research Committee: 75-89, 2011

Shiotani, Yoshiya “Invisible Inequality: Occupational Prestige,” Ken-ichi Ohbuchi and Nobuko Asai (Eds.) *Inequality, Discrimination, and Conflict*

*in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation*, Melbourne, Transpacific Press: 65-84, 2011.

[鈴木伸生] (2009.4～)

鈴木伸生、「大卒就職における OB 利用の効果と機会格差」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』No.40、pp.1-11、2011 年

鈴木伸生、「書評『ソーシャル・キャピタル入門——孤立から絆へ』稲葉陽二著、中央公論新社」『理論と方法』28 巻 2 号、2013 年

鈴木伸生(訳)、「第 1 章『人的資本, 努力, 性別役割分業』(原著 Gary S. Becker. 1985. “Human Capital, Effort, and the Sexual Division of Labor.” *Journal of Labor Economics* 3(1):33-58.)」佐藤嘉倫・小林盾・金井雅之編『リーディングス合理的選択理論——家族・組織・環境問題』勁草書房、2014 年

鈴木伸生「地位達成において社会ネットワークの格差は存在するのか?—大卒就職における OB へのアクセスとその効果—」『社会学研究』96 号(印刷中), 東北社会学研究会, 2015.

[Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy] (2009.4～2012.9)

千早健次、「配偶者選択における第三者からの結婚相手の紹介と学歴同類婚—EASS 2006 の日本と中国のデータから」、『日本版 General Social Surveys 研究論文集』10 号、pp.173-181、2010 年

Chihaya, Guilherme Kenji、「中国の改革開放時代における結婚のタイミング」『文化』75 巻 3-4 号、pp. 16-28、2012 年

[針原素子] (2005.4～2011.3)

\* 辻竜平・針原素子、「中学生の人間関係の認知・評価と一般的信頼」『理論と方法』25 巻 1 号、pp.31-47、2010 年

[林雅秀] (2007.4～2012.3)

\* 林雅秀・天野智将、「素材生産業者のネットワークが森林管理に与える影響」『社会学評論』61 巻 1 号、pp.2-18、2010 年

林雅秀・三須田善暢・庄司知恵子・高橋正也「地域の文化の発掘：歴史に埋もれた漆器生産」『フォレストウィンズ』42 号、pp.1-2、2010 年

\* 林雅秀・岡裕泰・田中亘、「森林所有者の意思決定と社会関係：取引費用経済学の視点から」『林業経済研究』57 巻 2 号、pp.9-20、2011 年

- \* 林雅秀、「シイタケ農家の被災：岩手県下閉伊郡田野畑村から」『林業経済』64巻5号、pp.20-22、2011年
- \* 八巻一成・庄子康・林雅秀、「自然資源管理のガバナンス：レブンアツモリソウ保全を事例に」『林業経済研究』57巻3号、pp.2-11、2011年
- \* 庄司知恵子・林雅秀・高橋正也・三須田善暢、「土屋喬雄の石神調査ノート(二)：アチックミュージアムによる石神調査の再考に向けて」『総合政策』13巻1号、pp.55-71、2011年
- [林雄亮] (2005.4～2011.3)
- \* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年報』39号、pp.63-74、2010年
- 林雄亮・佐藤嘉倫、「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房、2010年
- 神林博史・三輪哲・林雄亮、「ジェンダーと職業的不平等」、盛山和夫・神林博史編『日本の社会階層とそのメカニズム』、白桃書房、2010年
- Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, "An Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan," Yoshimichi Sato and Jun Imai ed. *Change in Japanese Welfare-Employment Regime and Inequality*, Trans Pacific Press, 2010年
- 林雄亮、「転職時の収入変化—高度経済成長期から2000年代までの構造と変容」、石田浩・近藤博之・中尾啓子編『21世紀の階層システム2』東京大学出版会、2010年
- 佐藤嘉倫・林雄亮、「現代日本の格差の諸相—転職とワーキングプアの問題を中心にして」、佐藤嘉倫・尾嶋史章編『21世紀の階層システム1』東京大学出版会、2010年
- 林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化—就業・結婚・出産のコーホート間比較」、佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明—ミクロ-マクロ連結からのアプローチ 第2分冊 教育・ジェンダー・結婚』、科学研究費補助金基盤研究(A)(20243029)成果報告書、229-243、2011年。
- 今井順・林雄亮、「移動レジームの変化についての試論—産業構造転換と規制緩和のなかで」、佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明

—マイクロ・マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究(A) (20243029) 成果報告書、75-92、2011年。

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” 佐藤嘉倫(編)、『現代日本の階層状況の解明—マイクロ・マクロ連結からのアプローチ 第1分冊 社会階層・社会移動』、科学研究費補助金基盤研究(A) (20243029) 成果報告書、119-130、2011年。

三輪哲・田辺俊介・岩瀬晋・長松奈美江・大槻茂美・石田光規・林雄亮、「SSM 職業分類・産業分類の再検討」、三輪哲(編)、『現代日本の階層状況の解明—マイクロ・マクロ連結からのアプローチ 別冊 SSM 職業分類・産業分類の改定に向けて』、科学研究費補助金基盤研究(A) (20243029) 成果報告書、1-45、2011年。

Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, “An Impact of Change in Household Composition on Poverty and Inequality in Japan,” Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds). *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Trans Pacific Press, 119-131, 2011.

[古里由香里] (2011.4～)

古里由香里・佐藤嘉倫、「主観的幸福感とソーシャル・キャピタル——地域の格差が及ぼす影響の分析」、辻竜平・佐藤嘉倫(編)、『ソーシャル・キャピタルと格差社会 幸福の計量社会学』、東京大学出版、189-208、2014

[余田翔平] (2008.4～2013.3)

\* 余田翔平・林雄亮、「父親の不在と社会経済的地位達成過程」『社会学年報』39号、pp.63-74、2010年

余田翔平、「結婚の不安定性の世代間伝達—父不在と離婚リスク」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明—マイクロ・マクロ連結からのアプローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結婚』(科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 研究課題番号:20243029)、pp.277-289、2011年

林雄亮・余田翔平、「女性のライフコースの変化—就業・結婚・出産のコーホート間比較」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明—マイクロ

マクロ連結からのアプローチ 第2冊分 教育・ジェンダー・結婚』  
(科学研究費補助金 基盤研究(A) 研究成果報告書 研究課題番号:  
20243029)、pp.229-243、2011年

\* 余田翔平、「母子世帯の高校生の教育達成過程—家族構造とジェンダーによる不平等の形成」『社会学研究』90号、pp.55-74、2012年

\* 余田翔平、「子ども期の家族構造と教育達成格差—二人親世帯／母子世帯／父子世帯の比較」『家族社会学研究』24号1巻、pp.60-71、2012年

Yoda, Shohei, “Single Parenthood and Children's Educational Attainment in Japan,” *Center for the Study of Social Stratification and Inequality (CSSI) Working Paper Series*, 2013.

[土田久美子] (2012.4～2015.3)

Tsuchida, Kumiko, “Reinventing Collective Identity: A Case Study of Interethnic Coalition based on ‘Shared Memory,’ ” 『コロキウム』第7号: 52-59, 2012年

土田久美子「東北地方における国際移住者の組織化プロセス—宮城県A市のフィリピン人女性グループを事例として」『社会学研究』第95号、東北社会学研究会、75-100頁、2015

[鎌田拓馬] (2014.4～)

Evelina Gavrilova, Takuma Kamada and Floris Zoutman, “Is Legal Pot Crippling Mexican Drug Trafficking Organizations? The Effect of Medical Marijuana Laws on US Crime,” NHH Discussion paper. 2015年.

[安藤努] (2014.4～)

安藤努「親のアプローチと子どもの学習習慣の関連—潜在クラスモデルを用いた計量分析—」『2014年度参加者公募型二次分析研究会研究成果報告書』東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター、77-92頁、2015

## (2) 口頭発表

[朝岡誠] (2005.4～2014.3)

朝岡誠「悪事千里を走る?—ワンステップ内の評判の効果」数理社会学会大会(沖縄国際大学)、2011年3月9日

朝岡誠「好事門を出でず—なぜ「良い」評判は伝わりにくいのか」数理社会学会大会（信州大学）、2011年9月7日

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, “Effect of One-Step Reputation -Opportunity Cost and Social Order” Japan-Swiss Joint Workshop on Agent-Based Models in Sociology at ETH Zürich, Switzerland, 15th, September, 2011.

Makoto Asaoka, Yusuke Kanazawa, “Why Does Bad Reputation Have Wings? An Exploration through an Agent-Based Model,” The 7th Conference of the European Social Simulation Association (ESSA) at Agropolis International, Montpellier, France, 21th September 2011.

朝岡誠, 金澤悠介, 林雅秀, 松浦俊也, 吉良洋輔「よそ者とうまく付き合うためのコモンズ管理ルールの解明—福島県南会津地方の共有林管理を事例として」数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012年3月14日

朝岡誠「開かれた共有林利用ルール成立の条件」数理社会学会大会（東北学院大学）、2013年3月19日

[安達智史]（2010.4～2011.6）

安達智史、「再帰的近代における若者ムスリムのアイデンティティについて」、関西社会学会大会（名古屋市立大学）、2010年5月30日

安達智史、「イギリスの若者ムスリムの社会意識——グローバルゼーション、再帰性、アイデンティティ」第83回日本社会学会（名古屋大学）、2010年11月6日 Adachi, Satoshi, 2010, “Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims,” The 10th Asian Pacific Sociological Association Conference, Hyatt Regency Kinabalu, Kota Kinabalu, December 6th, 2010.

Adachi, Satoshi, “Identity Management of Young British Muslims: Differentiation and Adaptation,”GCOE Workshop (Tohoku University), December 13th, 2010.

安達智史、「若者ムスリムのアイデンティティ管理——再帰性に着目して」トランス・ナショナル研究会（名古屋市立大学）、2011年5月18日

安達智史、「多文化主義をめぐる論争——再帰性、アイデンティティ・文化」第62回関西社会学会大会（甲南女子大学）、2011年5月29日

安達智史、「アイデンティティと文化の再帰的關係について——リベラル

な多文化主義に向けて」第 20 回グローバル社会理論フォーラム（名古屋大学）、2011 年 5 月 31 日

安達智史、「外国にルーツを持つ子どもと彼女／彼らを取り巻く世界」知多市にほん語の会（ふれあいプラザ）、2011 年 6 月 18 日

[井出知之]（2007.4～2012.3）

井出知之、「地位と階層帰属意識、その平等主義意識への影響について」数理社会学会大会（沖縄国際大学）、2011 年 3 月 8 日

井出知之、「階層帰属意識は社会的地位と平等主義の媒介変数たりうるか」東北社会学会大会（宮城学院大学）、2011 年 7 月 18 日

[稲垣佑典]（2007.4～2013.3）

Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, “Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market,” SunBelt XXX, Trento, Italy (Riva del Garda Fierecongressi), July 2, 2010.

Inagaki, Yusuke. June, 2011 “Analysis of Job Change and Social Stratification: A Social Network Approach.” The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, January 29-30, 2011.

稲垣佑典、「東日本大震災における地域ソーシャル・キャピタルの効果—復旧認知の観点から」第 53 回数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012 年 3 月 14 日

Inagaki, Yusuke, “Dysfunction of High Trust on Sanctioning Behavior in a Repeated Trust Game,” Tohoku-Stanford Summer School 2012, Tohoku University, Sendai, Japan, July 3, 2012.

Inagaki, Yusuke, “The Power of Kizuna: Social Capital and Recovery in the Great East Japan Earthquake,” The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Colorado Convention Center, Denver, USA, August 16, 2012.

Obayashi, Shinya, Inagaki, Yusuke, and Takikawa, Hiroki “The Condition of Generous Trust,” The Seventh Analytical Sociology Conference, The University of Mannheim, Mannheim, Germany, June 6-7, 2014.

Inagaki, Yusuke, Obayashi, Shinya, and Takikawa, Hiroki Does Trust Promote Generosity? The XVIII ISA World Congress of Sociology, Pacifico

Yokohama, Yokohama, Japan, July 13-19, 2014.

[大林真也] (2010.4~2015.3)

大林真也・金澤悠介、「コミュニティ・ユニオンにおける集合行為のメカニズム—フィールドワークと数理モデルによるアプローチ」数理社会学会（沖縄国際大学）、2011年3月8日

大林真也、「開放的集団における助け合いのメカニズム—経験的研究と数理的研究によるアプローチ」数理社会学会（鹿児島大学）、2012年3月14日

大林真也、「東日本大震災における援助行動の計量分析」数理社会学会（関東学院大学）、2012年8月30日

Obayashi Shinya, “What facilitated disaster volunteers in Miyagi?,” The 11th conference of Asia-Pacific Sociological Association (APSA) at Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Philippine, 22-24th October 2012

大林真也、「災害ボランティアの参加要因—宮城県震災データの計量研究—」日本社会学会大会（札幌学院大学）、2012年11月3-4日

大林真也、「プレイヤー流動性のある集団における利他的慣習成立のメカニズム—Overlapping Generation Gameの社会学的応用—」ゲーム理論ワークショップ（一橋大学）、2013年3月15-17日

大林真也, “Joint Labor Disputes in Community Unions: An Application of OLG Repeated Game” ミクロワークショップ（東京大学）、2013年7月9日

Obayashi Shinya, “Reciprocal exchange systems by overlapping generations of players: based on empirical and game theoretic approaches,” Asian Meeting of the Econometric Society at National University of Singapore, Singapore, 2-4th August 2013.

Kandori, Michihiro and Obayashi Shinya. “Reputation and Punishment” Arthur M. Sackler Colloquia of the National Academy of Sciences. University of California, Irvine. America. 10<sup>th</sup> January 2014.

大林真也、「公共財ゲームにおける集団の動的変化の効果：懲罰なしで公共財を供給する方法」第57回数理社会学会大会（山形大学）、2014年3月9日

Obayashi Shinya, Inagaki Yusuke, and Takikawa Hiroki, “The Condition of Generous Trust,” 7<sup>th</sup> International Network of Analytical Sociologists Conference, Mannheim, Germany, 7<sup>th</sup> June 2014.

Obayashi Shinya, Inagaki Yusuke, and Takikawa Hiroki, “Does Trust Promote Generosity?” 18<sup>th</sup> International Sociological Association World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, 16<sup>th</sup> July 2014.

Kandori, Michihiro and Obayashi Shinya, ” Labor Union Members Play an OLG Repeated Game,” The 25<sup>th</sup> Conference on Game Theory, Stony Brook University, New York, America, 7<sup>th</sup> July 2014.

Kandori, Michihiro and Obayashi Shinya, ”Labor Union Members Play an OLG Repeated Game.” Stanford Institute for Theoretical Economics(SITE) Summer Workshop 2014, Stanford, America, 21<sup>th</sup> July 2014.

大林真也「数理モデルによる経験的な社会現象の説明」（第10回数理社会学会論文賞受賞講演）、第58回数理社会学会大会、東京女子体育大学、2014年8月30日

[小川翔平] (2011.4～2013.3)

小川翔平、「ボランティア活動参加における階層依存性の検討」数理社会学会大会（鹿児島大学）、2012年3月15日

[金澤悠介] (2005.4～2013.3)

内海裕太・林雅秀・金澤悠介・吉良洋輔・海野道郎、「社会的ジレンマの観点から見た入会地の管理—宮城県白石市小原地区の複数村入会の事例分析—」第49回数理社会学会大会、2010年

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護系の入試構造に見る高大接続問題」平成22年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会（第5回）大会、2010年

金澤悠介・片山琴絵・廣瀬毅士・山口和範、「e-Learningによる統計教育の実践と統計教育の質保証」第38回行動計量学会、2010年

Kanazawa, Yusuke, Ushio Tanaka, Tsuyoshi Hirose, Kazunori Yamaguchi. 2010. “Features of the E-Learning Course for Social Survey and Introductory Statistics in Rikkyo University.” *10th China-Japan Symposium on Statistics*.

金澤悠介・林雅秀・吉良洋輔・海野道郎. 2010. 「入会林野管理の計量社

- 会学的研究」 第 83 回日本社会学会.
- 金澤悠介. 2011a. 「看護系大学の入試の実態—入試科目の観点から—」  
日本看護学教育学会第 21 回学術集会
- 金澤悠介. 2011b. 「commons の利用状況を規定する社会状況—『昭和 49 年全国山林原野入会慣行調査』の計量社会学的分析—」 第 52 回数理社会学会大会
- Kanazawa, Yusuke., Ushio Tanaka and Kazunori Yamaguchi. 2011. “An e-Learning course for multivariate analysis: The case of Rikkyo University”, *Joint meeting the Korea-Japan Conference of Computational Statistics and the 25th Symposium of Japanese Society of Computational Statistics*.
- Asaoka, Makoto and Yusuke Kanazawa. 2011a. “Effect of one-step reputation: Opportunity cost and social order” *Japan-Swiss Joint Workshop on Agent Based Model in Sociology*.
- 山口和範・金澤悠介・田中潮. 2011. 「立教大学における統計関連科目の e-learning 展開とその教育成果について」 2011 年度統計関連学会連合大会.
- 金澤悠介. 2012. 「階層帰属意識は何を測定しているのか？—潜在クラス分析によるアプローチ—」 第 4 回 SSP 研究会（統計数理研究所共同利用研究公開研究会）
- 金澤悠介. 2012. 「潜在クラス分析による commons 管理の分類—『昭和 49 年全国山林原野入会慣行調査』にもとづく分析—」 第 53 回数理社会学会.
- 塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏. 2012. 「ビネット調査による社会的地位評価の分析」 第 4 回 SSP 研究会（統計数理研究所共同利用研究公開研究会）
- Kanazawa, Yusuke, 2012, “Does prisoner’s dilemma game reflect the reality of commons?: A quantitative analysis of Japanese commons (Iriai) in 1972,” *Fifth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology*.
- 金澤悠介. 2013. 「中高年層における社会的孤立の要因とその帰結—孤立予備軍に着目した探索的分析—」 第 55 回数理社会学会大会
- [鎌田拓馬] (2012.4～)
- Makiko, Nakamuro and Takuma, Kamada, “The Rate of Returns to Education

Using Twins Data in Japan” Tohoku-Stanford Summer School 2012,  
Tohoku University, Japan, 5<sup>th</sup> July 2012

鎌田拓馬, 「地域と犯罪——社会解体論の実証研究」、第 55 回数理社会学会 (東北学院大学), 2013 年 3 月 19 日.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and Racial Inter-marriage: an Agent Based Model of Marital Matches in Networks,” 第 55 回数理社会学会 (東北学院大学), 2013 年 3 月 19 日.

Takuma Kamada, “Marginalization, Vulnerability and Crime: Evidence from Tokyo,” Asian Criminological Society 5th Annual Conference, Mumbai India, April 15th 2013.

鎌田拓馬, 「医療大麻合法化は薬物依存のリスクを低下させるか——合理的選択理論の応用とその実証研究」、非行研第 97 回定例研究会 (東京大学), 2013 年 4 月 21 日.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and Assortative Mating: an Agent Based Model of Marital Matches in Networks,” XXXIII Sunbelt International Network for Social Network Analysis, Hamburg Germany, May 24<sup>th</sup> 2013.

Takuma Kamada, “Do Medical Marijuana Laws Lower the Risk of Addiction to Other Illicit Substances? Rational Choice Theory and Weakened Social Control,” Preconference Rationality and Society Section of the ASA, New York U.S.A., August 9<sup>th</sup> 2013.

Guilherme Kenji Chihaya and Takuma Kamada, “Network Homophily and Racial Inter-marriage: an Agent Based Modeling Approach,” American Sociological Association 108<sup>th</sup> Annual Meeting, New York, U.S.A., August 11<sup>th</sup> 2013.

Takuma Kamada, “Medical Marijuana Laws, Drug Addicts and Crime: Rational Choice Theory and Empirical Evidence from the U.S.”, 第 56 回数理社会学会 (関西学院大学), 2013 年 8 月 28 日.

鎌田拓馬, “Compulsory Education and Adolescent Suicide”, 第 57 回数理社会学会 (山形大学), 2014 年 3 月 8 日.

Takuma Kamada, “Organized Crime Exclusion Ordinances and Crime”, Asian Criminological Society 6<sup>th</sup> Conference, Osaka Japan, 28<sup>th</sup> June 2014.

Tetsuya Hoshino and Takuma Kamada, “Crackdowns on Yakuza and Crime: Evidence from Japan”, Tohoku-Stanford Summer School 2014, Tohoku University, Japan, 12<sup>th</sup> June 2012

Takuma Kamada, “Medical Marijuana Laws and Substance-Induced Deaths: Evidence from the U.S.”, XV III ISA World Congress of Sociology, Yokohama Japan, 15<sup>th</sup> July 2014.

Takuma Kamada, “Crackdowns on Yakuza and Crime: Evidence from Japan,” Asian Criminological Association, 大阪商業大学, 2014年6月25日.

鎌田拓馬・星野哲也、「抑止理論と組織犯罪」日本犯罪社会学会, 京都産業大学, 2014年10月19日.

Evelina Gavrilova, Takuma Kamada and Floris Zoutman, “Is Legal Pot Crippling Mexican Drug Cartels? Evidence on the Effects of Medical Marijuana Laws on Crime in US border Regions,” Quantitative Methods in Sociology Workshop, Harvard University, 2014年9月28日

[川嶋伸佳] (2011.4~2012.3)

川嶋伸佳・大淵憲一 「階層帰属意識とマイクロ公正感」日本社会心理学会第52回大会 (名古屋大学)、2011年9月18日

川嶋伸佳 「社会的な不平等とマイクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」日本社会心理学会第52回大会ワークショップ(名古屋大学) 「『関係性』に注目した公正概念の検討—手続きなのか人間関係なのか—」2011年9月19日

Kawashima, Nobuyoshi. “Social Stratification and Micro Fairness: Mediation by the Perception of Inequality of Outcomes and Opportunities and That of Respect,” Workshop on the Frontiers of Social Research, in conference room 422, Sino Building, The Chinese University of Hong Kong, February 14, 2012.

[吉良洋輔] (2009.4~2014.3)

吉良洋輔・河村和徳、「市町村合併のゲーム論的分析」公共選択学会 (慶応義塾大学)、2010年6月27日

吉良洋輔、「無限繰り返しゲームによるコモنز・ジレンマの分析—利他的懲罰による均衡維持メカニズムの定式化」数理社会学会大会 (沖縄)

- 国際大学)、2011年3月8日
- 吉良洋輔、「社会的ジレンマにおける協力行動と他者行動認知の関連—東日本大震災後の節電行動の計量分析—」数理社会学会大会(鹿児島大学)、2012年3月15日.
- 林雅秀・松浦俊也・吉良洋輔、「共有林の利用と部外者入山ルール」日本森林学会大会(宇都宮大学)、2012年3月28日
- 吉良洋輔、「東日本大震災後の節電行動における他者行動認知の効果」公共選択学会大会(専修大学神田校舎)、2012年7月1日.
- Kira, Yosuke, “Why Communication Promotes Cooperation in Social Dilemmas.” The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, at the Colorado Convention Center, Denver, U.S.A., 16th August 2012
- Hayashi, Masahide, Toshiya Matsuura, Yosuke Kira. “Rules of Using Common Forests for Wild Plants and Mushrooms: A Comparative Study of Rural Communities in Japan.” World Congress of Rural Sociology, at University of Lisbon, Lisbon, Portugal, 2nd August 2012
- Hayashi, Masahide, Toshiya Matsuura, Makoto Asaoka, Yosuke Kira. “Accommodating Strangers in Common Forests: A Comparative Study of Rural Communities in Japan.” the 14th Biennial IASC Global Conference, at Mount Fuji - lake Yamanaka and Fujiyoshida City, Japan, 4th June 2013.
- 吉良洋輔、「日和見主義的非協力が『2次のジレンマ』を解決する—繰り返しNPDにおける多人数逸脱と利他的懲罰—」数理社会学会大会(関西学院大学), 2013年9月.
- [毛塚和宏] (2011.4~2013.3, 2014.4~)
- 毛塚和宏、「教育達成の階層間格差における下降回避仮説検討」数理社会学会大会(東北学院大学)、2013年3月20日
- [Sarker, MD. Shahidul Islam] (2007.4~2014.3)
- Sarker Md Shahidul, “Parents’ class background and Hypergamy in marriage market of Bangladesh; Does the dowry affect school dropout among girls?” The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, at the Colorado Convention Center, Denver, U.S.A., 16th August 2012
- Sarker Md Shahidul, “Mother participation in household decisions and girls

education,” 3rd International Conference on Humanities, Geography and Economics, Bali, Indonesia, January 5<sup>th</sup>, 2013

[鈴木伸生] (2009.4～)

鈴木伸生、「大卒就職において OB 利用の効果は衰退したのか—OB の機能に着目して」数理社会学会大会 (沖縄国際大学)、2011 年 3 月 8 日

鈴木伸生「大卒就職における OB 利用の規定要因」日本社会学会大会 (関西大学)、2011 年 9 月 17 日

鈴木伸生、「個人のサポートに対する個別的・集合的社会関係資本の役割—東日本大震災の被災者を対象に—」数理社会学会大会 (鹿児島大学)、2012 年 3 月 14 日

鈴木伸生、「社会関係資本の形成メカニズムにおける数理的解明」東北ソーシャルキャピタル研究会 (東北工業大学)、2012 年 3 月 16 日

Suzuki, Nobuo, “The Formation Conditions of New Social Networks: An Empirical Study with Disaster Victim of Earthquake at North-East Japan.” The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Denver, The Colorado Convention Center, August 16th, 2012.

鈴木伸生、「社会関係資本の形成において、多様性は重要か?—大学生のサークル集団を対象とした実証的研究—」東北社会学会 (東北大学)、2013 年 7 月 21 日

鈴木伸生、「結束型社会関係資本は、外集団ネットワークを形成するか?—大学生のサークル集団を対象としたマルチレベル分析による検討—」数理社会学会 (関西学院大学)、2013 年 8 月 28 日

鈴木伸生、「集団の社会関係資本が主観的健康に及ぼす影響—大学生のサークル集団を対象とした Heterogeneous Choice Model による検討—」日本社会学会 (慶應義塾大学)、2013 年 10 月 12 日～13 日

鈴木伸生「集団の社会関係資本と健康—まちづくりに対するインプリケーション」第 50 回日本都市計画学会, 宮崎大学, 2015 年 11 月.

Suzuki, Nobuo. “Homophily and social participation in Japan: the analysis of dyadic data.” The 1st East Asian Conference for Young Sociologists. Yonsei University, South Korea. February 2nd 2015.

Suzuki, Nobuo. “Which types of homophily have relevance to a congruence on social participation among ego and alter?” 第 59 回数理社会学会大会, 久

留米大学, 2015年3月14日.

Suzuki, Nobuo. "Homophily and Social Participation in Japan: The Analysis of Dyadic Data." 東北計量社会学研究会, 東北大学, 2015年2月7日.

[Chihaya da Silva, Guilherme Kenji] (2009.4~2012.9)

Chihaya da Silva, Guilherme Kenji, 「Partner Introduction and Homogeneity in China: Does Who Introduces Matters?」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボリ、ヨーテボリ大学ハンデルスビジネススクール 2010年7月14日

Chihaya da Silva, Guilherme Kenji, 「Market Transition and the Social Space of Interactions in China: Changes in the Status Positions of Occupations after the Reforms」ISA 国際社会学会大会 ヨーテボリ、ヨーテボリ大学ハンデルスビジネススクール 2010年7月16日

Chihaya, Guilherme Kenji, "Who Marries Whom in China" The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, Tohoku University, January 30th, 2011.

Chihaya, Guilherme Kenji, "Who Gets to Marry in China: Inequalities in Marriage Markets in the Post-Reform Urban China", Spring Meeting of the Research Committee for Social Stratification and Inequality, Hong Kong, Chinese University of Hong Kong, May 11th, 2012.

[針原素子] (2005.4~2011.3)

Harihara, Motoko, "Location of social networks and political participation: Comparative study in Japan and Korea," 30th Sunbelt Social Network Conference, 2010, July, 1st, Riva del Garda, Italy

[林雅秀] (2007.4~2012.3)

林雅秀・松浦俊也・吉良洋輔、「共有林の利用と部外者入山ルール」日本森林学会大会(宇都宮大学) 2012年3月28日

[林雄亮] (2005.4~2011.3)

Inagaki, Yusuke and Yusuke Hayashi, "Reexamination of Social Networks on Job Changes: the Case of Japanese Labor Market," International Network for Social network Analysis Sunbelt XXX at Riva del Garda Fiere Congressi Riva del Garda, Trento, 2 July 2010.

Hayashi, Yusuke, "Job Mobility after the Economic Transformation: Cross-national Comparison of Japan and Korea," International Sociological

Association World Congress Research Committee 28-07 at University of Gothenburg, Gothenburg, 13 July 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan,” Annual Meeting of American Sociological Association at Hilton Atlanta, Atlanta, 14 August 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, “Employment deregulation and increasing fragmentation of workers' career in Japan,” UC Riverside-Tohoku Joint Symposium at Tohoku University, Sendai, Japan 19th November 2010.

Imai, Jun and Yusuke Hayashi, “Making of a sphere of risky mobility: the new segmentation of labor market in Japan,” German Institute for Japanese Studies Expert workshop: New employment risks in East Asia at DIJ Tokyo, Tokyo, Japan, 26th November 2010.

Hayashi, Yusuke, “Changes in Japanese Adolescents 2: Sexual behavior and Communication,” The 10th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Hyatt Regency Kinaablu Hotel, KotaKinabalu, Malaysia 9th December 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, “Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan” The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Westin Sendai, Sendai, 29th January 2011.

[古里由香里] (2011.4～)

古里由香里、「介護職の専門職化と職場環境に関わる問題の構造」数理社会学会大会（信州大学）、2011年9月6日

The 2014 ANPOR Annual Conference、“Social Capital and Subjective Happiness”、口頭、2014年11月29-30日新潟

ソーシャル・キャピタルワークショップ「社会関係資本と幸福」、「社会学からみた幸福と社会関係資本——社会関係資本と主観的幸福感」、招待講演、2015年3月13日日本大学法学部

第59回数理社会学会大会（JAMS59）、「職業の階層性と自職卑下傾向が労働者の主観的幸福感に及ぼす影響の検討」、ポスター、2015年3月14日

the 28th International Congress of Applied Psychology Scientific Programme,  
“Mental Health Problems among Workers after the 2011 Great East Japan  
Earthquake: The Effects of Occupation and Work-Life Conflict on  
Depression” , E ポスター, presentation, July 2014

The 1st East Asian Conference for Young Sociologists 2015 & The 9th National  
Conference for Sociology Graduate Students, “Inequality and happiness  
in Japan: The Effect of Occupation and occupational prestige score”、口  
頭、2015年2月3日 Seoul

Yukari Furusato and Yoshimichi Sato, “A Paradoxical Relationship between  
Bonding Social Capital and Subjective Well-being,” Tohoku-Stanford  
Summer School 2012, Tohoku University, Japan, July 2-6, 2012

Yukari Furusato and Yoshimichi Sato, “The Moderating Effect of Closeness of  
Community on the Relationship between Social Capital and Depression”  
The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology  
Conference, Denver, Colorado, August 16, 2012

古里由香里・佐藤倫嘉「結束的ソーシャルキャピタルと主観的幸福観のパ  
ラドキシカルな関係」日本社会学会大会（札幌学院大学）、2012年  
11月3日

Yukari Furusato, “Mental Health Problems among Workers after the 2011 Great  
East Japan Earthquake: The Effect of Occupation and Work-Life Conflict  
on Depression.” The 28th International Congress of Applied Psychology,  
Paris, French, July 8-13, 2014

[余田翔平]（2008.4～2013.3）

余田翔平,「家族構造と地位達成—早期父不在者のライフコースに関する計  
量的研究—」, 家族問題研究学会, 東京, 早稲田大学, 2010年4月24  
日

余田翔平,「父不在層のライフコース—SSM データを用いた時系列分析」  
第20回家族社会学会大会（成城大学）、2010年9月11日

余田翔平,「ひとり親家族と教育達成過程—家族構造とジェンダーによる  
不平等の形成」第83回日本社会学会大会（名古屋大学）、2010年11  
月6日

Shohei, Yoda, “Changes in Japanese Adolescents 1: School, Gender and

Family.” The 10th Conference of Asia Pacific Sociological Association, Hyatt Regency Kinabalu, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, December 8-11, 2010.

余田翔平、「子ども期の家族構造と教育達成格差—二人親世帯／母子世帯／父子世帯の比較」第21回家族社会学会大会（甲南大学）、2011年9月11日

林雄亮・余田翔平、「日本女性のM字型就業パターンの再検討—2005年SSM調査による潜在クラス分析」第84日本社会学会大会（関西大学）、2011年9月17日

余田翔平・木村邦博、「現代高校生の規範意識—世代論か発達論か」東北社会学会（山形大学）、2012年7月16日

木村邦博・余田翔平、「高校生の規範意識の測定と潜在クラス分析」日本行動計量学会（新潟大学）、2012年9月14日

余田翔平、「女性の就業とディストレス」日本家族社会学会（お茶の水女子大学）、2012年9月16日

Yoda, Shohei, “The Effects of Education on Marital Dissolution in Japan”, The 11th Conference of the Asia Pacific Sociological Association (APSA) at the School of Social Sciences, Ateneo de Manila University, Philippines, 22-24th October 2012

Yoda, Shohei, “Educational Differentials in Marital Stability in Japan,” The Sixth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul, South Korea, January 12-13, 2013.

余田翔平、「家族構造による教育達成格差の形成メカニズム」東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブセンター2012年度二次分析研究会 課題公募型研究 成果報告会1（東京大学本郷キャンパス 赤門総合研究棟5階 センター会議室）、2013年3月13日。

[土田久美子] (2012.4～2015.3)

Tsuchida, Kumiko and Lee Sunhee, “Rebuilding the Livelihood after the Disaster: Case Studies of Immigrant Women in Tohoku,” International Sociological Association 2<sup>nd</sup> Forum of Sociology, University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August 2, 2012.

Tsuchida, Kumiko, "Organizing for Self-reliance among Filipino Female Immigrants in Tohoku Region, Japan," Aisa-Pacific Sociological Association the 11<sup>th</sup> Conference, Ateneo de Manila University, Queson City, the Philippines, October 22, 2012.

土田久美子, 「異なるエスニック集団間の関係構築—日系／ムスリム・アメリカ人による教育プログラムを事例として」, 日本社会学会第 85 回大会 (札幌学院大学), 2012 年 11 月 3 日.

土田久美子, 「インターエスニックな社会運動の可能性—日系アメリカ人集団とムスリム系アメリカ人集団の連帯構築プロセスを事例として」, 東北大学文学研究科グローバル COE クロージング・セレモニー (ウエスティンホテル仙台), 2013 年 2 月 16 日.

土田久美子, 「過去の不正義に対する法的救済の意義と限界—在米日系ペル一人による補償請求運動を事例として」, 2013 年度日本法社会学会学術大会若手ワークショップ (青山学院大学), 2013 年 5 月 10 日.

Tsuchida, Kumiko, "Preserving a Historical Ethnic Town with Multiethnic Groups : A Case Study of Redevelopment Process," East Asia Junior Sociologist Foun, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, July 13, 2014.

Tsuchida, Kumiko, "Organizing Immigrants in Rural Areas in Japan: Case Studies of the Tsunami-Devastated Areas," XVII International Sociological Association World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, July 18, 2014.

Tsuchida, Kumiko, "Revitalizing and Preserving an Ethnic town: A Case Study of Little Tokyo, Los Angeles," 1st East Asian Conference for Young Sociologists 2015, Seoul, ROK, 2015 年 2 月 3 日

[毛塚和宏] (2014.4～)

毛塚和宏, 「個人主義の浸透は見合い結婚を衰退させたか—階層維持選好に着目した選好の進化アプローチによる検討」, 第 58 回数理社会学会、日本女子体育大学、2014 年 8 月 30-31 日

[安藤努] (2014.4～)

安藤努「親のアプローチと子どもの学習習慣の関連—潜在クラスモデルを用いた計量分析—」 2014 年度参加者公募型共同研究 (二次分析研究会)、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究

センター、2015年2月23日

[宍戸梨絵] (2014.4～)

宍戸梨絵、「同性愛寛容度と宗教——宗教上の文脈が信心深さと同性愛寛容度の関係に与える影響」数理社会学会第59回大会、久留米大学、2015年3月14-15日(ポスター発表)

[龚 順] (2014.4～)

Shun Gong. “The identity of Immigrants in Japan.” Tohoku-Stanford Summer School. 東北大学. 2014年5月.

Shun Gong. “Occupational Status, Perceived discrimination and Migrants’ Life Satisfaction: The case of Japan.” 第59回数理社会学会大会. 久留米大学. 2015年3月.

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

稲垣佑典、平成22年度 日本社会心理学会優秀論文賞、2010年9月

安達智史、平成22年度 日本社会学会奨励賞(論文の部)、2010年11月

安達智史、平成23年度 関西社会学会大会奨励賞、2011年5月

高前田和平、平成23年度 東北大学総長賞(卒業論文)「異質な成員間での社会統合の条件」、2012年3月

鈴木伸生、The Fifth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference Travel Grant、2012年8月

富田芽、平成24年度 東北大学総長賞(卒業論文)

「協力行動を促す罰と報酬の効果—レジ袋削減への取り組みから—」、2013年3月

吉良洋輔、平成25年度 東北大学総長賞(博士論文)

「複数均衡としての社会規範—繰り返しゲームにおける均衡精緻化と協力行動—」、2014年3月

大林真也、第10回数理社会学会論文賞

「流動的集団における助け合いのメカニズム：経験的研究と数理的研究によるアプローチ」

鈴木伸生. 第59回数理社会学会大会 トラベルグラント受賞、2015年3月.

古里由香里、第13回日本NPO学会優秀賞、日本NPO学会、平成27年

3月14日

#### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 DC2採用1名、PD受け入れ1名  
2011年度 DC1採用1名、DC2採用2名  
2012年度 DC1採用1名、DC2採用1名、PD受け入れ1名  
2013年度 DC1採用1名  
2014年度 DC1採用1名

#### 5 留学・留学生受け入れ

##### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010年度 学部生 計1名 ウプサラ大学 スウェーデン  
2012年度 学部生 計1名 カリフォルニア大学 アメリカ合衆国  
2013年度 大学院 計1名 ヴィクトリア大学 カナダ  
2014年度 大学院 計1名 ヴィクトリア大学 カナダ

##### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	0(2)	0	0(2)
11	0(5)	0	0(5)
12	0(5)	3	3(5)
13	1(7)	2	3(7)
14	1(3)	4	5(3)
15	0	0	0
計	2(22)	9	11(22)

#### 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	1	0	1
11	0	1	1
12	0	0	0
13	0	1	1
14	0	0	0
15	0	0	0

計	1	2	3
---	---	---	---

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

本郷正武、和歌山県立医科大学医学部、2010年度  
 林雄亮、立教大学社会学部、2011年度  
 針原素子、東京女子大学現代教養学部、2011年度  
 金澤悠介、岩手県立大学総合政策学部、2014年度  
 川嶋伸佳、京都文教大学総合社会学部、2014年度

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1名  
 通訳 0名  
 ジャーナリスト 1名  
 出版社社員 0名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

2012年度 Shu-Yuan Yang (台湾、私費)

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

2010年度 Hyunjoon Park 客員准教授  
 2012年度 Karen Shire 非常勤講師  
 2014年度 Kwang-Yeong Shin 教授 (知のフォーラム招聘研究者)  
 2014年度 Hyunjoon Park 客員准教授  
 2014年度 Li Chunling 研究員 (中国社会科学院)

## 10 刊行物 (専攻分野刊行のもの)

本研究室では、全国学会、もしくは海外での研究成果の報告を奨励していることから、研究室独自の定期刊行物の刊行はおこなっていない。(なお、研究室構成員は、これまで、日本社会学会、数理社会学会、行動計量学会の機関誌編集委員長となり、内外の他学会機関紙の編集委員担当も含め、学術情報の発信には積極的に貢献している。)

## 1.1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

### 2010 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局  
東北大学教育文化研究会事務局  
数理社会学会研究事務局

### 2011 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局  
東北大学教育文化研究会事務局  
移動レジャー研究会事務局  
数理社会学会編集事務局  
SSP 研究会数理・実験セクション事務局

### 2012 年度

東北大学教育文化研究会事務局  
移動レジャー研究会事務局  
数理社会学会編集事務局  
SSP 研究会数理・実験セクション事務局

### 2013 年度

東北大学教育文化研究会事務局  
移動レジャー研究会事務局  
SSP 研究会数理・実験セクション事務局

### 2014 年度

東北大学教育文化研究会事務局  
移動レジャー研究会事務局  
日本行動計量学会第 42 回大会実行委員会  
SSP 研究会数理・実験セクション事務局

### 2015 年度

東北大学教育文化研究会事務局  
移動レジャー研究会事務局  
東北社会学会第 62 回大会実行委員会  
SSP 研究会数理・実験セクション事務局  
数理社会学会会計事務局

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 2010 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第  
2 回調査（2010 年 9～11 月）

### 2011 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第  
3 回調査（2011 年 8～10 月）

第 3 回 SSP 研究会「社会階層と意識に関する z-Tree 実験」（2011 年 12  
月）

### 2012 年度

東北大学教育文化研究会 「学校生活と社会に対する高校生の意識」第  
4 回調査（2012 年 8 月～10 月）

### 2014 年度

反外国人意識研究会 「国際化と政治に関する市民意識調査」（2014  
年 7 月～10 月）

東北社会学研究会

第 1 回 SSP 調査「階層と社会意識全国調査」（2015 年 2 月～3 月）

### 2015 年度

第 7 回 SSM 調査「社会階層と社会移動調査」（2015 年 4 月～5 月）

## 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

過去 5 年間における最大の成果は 2008 年度にグローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が採択されたことである。行動科学研究室では、佐藤嘉倫教授がこの拠点リーダーとなり、他の教員も全員、事業推進担当者としてこのプログラムに関わった。このグローバル COE プログラムを通じて、行動科学専攻分野の大学院生の教育にも力を入れた。その成果の一環として、博士学位授与件数は、2011 年度に 2 件、2012 年度に 3 件、2013 年度に 3 件、2014 年度に 1 件出ており、健闘している。今後も、後期 3 年間で博士学位論文を提出する数を増やせるよう、指導を行っていきたい。

グローバル COE プログラム終了後も、グローバル安全学トップリーダー育成

プログラムで佐藤嘉倫が「安全・安心に生きる」ユニット長を務めている。また知のフォーラム「技術変化が社会移動・所得分配に及ぼす影響に関する理論的・実証的研究：東アジアの移動格差・所得格差問題を中心として」では佐藤が共同主催者を務めるとともに、浜田宏と永吉希久子が参加している。これらのプログラムを通じて大学院生の教育の高度化が図られている。

学部生の教育については、これまでも社会調査をおこなうためのトレーニングを体系的に組んできたが、2004年度から実施された「社会調査士資格」の認定カリキュラムより、多くの学生が社会調査を通じて教育の成果を社会に還元してくれることを願っている。なお、一般社団法人社会調査協会では、木村邦博が2009年9月から2011年3月まで、および2011年12月から2013年11月まで、社会調査協会の機関誌『社会と調査』の専門査読委員を依嘱された。また永吉希久子が2014年4月から連絡責任者を務め、行動科学研究室と社会調査協会の連携を強めている。

学会活動では、教員および大学院生とも積極的に学会運営および報告に寄与している。数理社会学会、および行動計量学会では、ほぼ毎年登壇しており、活発な議論を展開している。また国際社会学会世界社会学会議横浜大会でも多くの研究室メンバーが報告していて、さらなる国際的展開が期待できる。

学会役員としても、大きく貢献してきた。数理社会学会では、浜田宏が理事をつとめている（2009年度～現在）。（なお、数理社会学会に関しては、原純輔、海野道郎、佐藤嘉倫がともに会長経験者である。）日本社会学会においても、佐藤嘉倫が世界社会学会議組織委員（2008年度～2014年度）および学会英文雑誌担当の理事（副編集長）として学会の国際化活動を支えている。さらに佐藤は、国際社会学会理事（2006年度～2014年度）および合理的選択部会会長（2006年度～2010年度）、同部会理事（2010年度～2014年度）として国際社会学会に貢献するとともに、アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長（2011年度）、評議員（2010年度、2012年度）としてアメリカ社会学会にも貢献している。木村邦博は、日本教育社会学会編集委員会委員（2007年10月～2011年9月）をつとめたほか、日本行動計量学会欧文機関誌編集委員会委員（2009年度～2014年度）・同学会広報活動委員会委員（2012年度～2014年度）もつとめた。永吉希久子は、2015年7月に東北大学で開催される東北社会学会大会の実行委員長をつとめている。

浜田宏は文部科学省学術調査官を兼任して（2010年8月～2012年7月）、新学術領域研究を中心とする全国の最先端研究プロジェクトの推進を支援した。グローバルCOEプログラムをはじめ、多くの大規模な研究プロジェクトが本研究室を中心に進行する一方で、事務局機能が肥大化しているのも事実である。幸い、近隣の他大学の教員や、本研究室を修了した研究者が積極的にプロジェクトを担っており、同時並行で研究が進んでいる。今後も他大学との連携を図り、事務局体制をより一層強化することが求められよう。

### Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015年5月20日）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, "Are Asian Sociologies Possible?: Universalism versus Particularism," Michael Burawoy, Mau-kuei Chang, and Michelle Fei-yu Hsieh (eds.), *Facing An Unequal World: Challenges for A Global Sociology vol. 2: Asia*, Institute of Sociology, Academia Sinica and Council of National Associations of International Sociological Association, 192-200, 2010

Sato, Yoshimichi, "Stability and Increasing Fluidity in the Contemporary Japanese Social Stratification System," *Contemporary Japan*, 22-1&2: 7-21, 2010

Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" Hyun-Chin Lim, Wolf Schafer, and Suk-Man Hwang (eds.), *New Asias: Global Futures of World Regions*, 209-225, Seoul: Seoul National University Press, 209-225, 2010

Imai, Jun and Yoshimichi Sato, "Regular and Non-Regular Employment as an Additional Duality in Japanese Labor Market: Institutional Perspectives on Career Mobility," Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2011

Sato, Yoshimichi, "Institutions and Inequality in the Status Attainment Process :A Theoretical Note," 佐藤嘉倫（編），『現代日本の階層状況の

- 解明—ミクロ—マクロ連結からのアプローチ— 第1巻 社会階層・社会移動』, 科学研究費補助金研究成果報告書, 1-13, 2011
- 林雄亮・佐藤嘉倫, 「流動化する労働市場と職業キャリアの格差」, 盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲(編) 『日本の社会階層とそのメカニズム—不平等を問い直す』, 東京: 白桃書房, 2011
- 佐藤嘉倫・林雄亮, 「現代日本の格差の諸相—転職とワーキングプアの問題を中心に—」, 佐藤嘉倫・尾嶋史章(編) 『現代の階層社会1 格差と多様性』, 東京: 東京大学出版会, 2011
- Sato, Yoshimichi, “Does Mathematical Sociology Contribute to the Progress of Sociology?” 『理論と方法』, 第26巻第2号、243-252頁、数理社会学会、2011
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Increasing Fluidity in the Contemporary Japanese Social Stratification System,” Humbert, Marc and Yoshimichi Sato (eds.), *Social Exclusion: Perspectives from France and Japan*, Trans Pacific Press, 8-19, 2012
- 佐藤嘉倫, 「正規雇用と非正規雇用—日本における格差問題—」, 佐藤嘉倫・木村敏明(編) 『不平等生成メカニズムの解明—格差・階層・公正』, 15-34, 京都: ミネルヴァ書房, 2013
- Sato, Yoshimichi, “Who Becomes a Liberal? An Empirical Study of the Choice between Liberalism and Libertarianism,” *Bunka*, 77-1/2: 42-54, 2013.
- Sato, Yoshimichi, “Mathematical Sociology in Japan: Its Powerful Development and a Problem,” *International Journal of Japanese Sociology*, 22-1: 16-31, 2013
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice Theory,” (Updated), *Sociopedia*, 2013. (<http://www.sagepub.net/isa/admin/viewPDF.aspx?&art=RationalChoice2013.pdf>)
- Sato, Yoshimichi, “Social Capital,” *Sociopedia*, 2013.
- 古里由香里・佐藤嘉倫, 「主観的幸福感とソーシャル・キャピタル—地域の格差が及ぼす影響の分析」, 辻竜平・佐藤嘉倫(編) 『ソーシャル・キャピタルと格差社会—幸福の計量社会学』, 東京: 東京大学出版会, 2014.
- Nagayoshi, Kikuko and Yoshimichi Sato, “Who Supports Redistributive Policies

- in Contemporary Japan? An Integrative Approach to Self-interest and Trust Models,” *International Sociology*, 29-4: 302-323, 2014.
- Kobayashi, Jun, Mei Kagawa, and Yoshimichi Sato, “How to Get a Longer Job? Roles of Human and Social Capital in the Japanese Labor Market,” *International Journal of Japanese Sociology* 24(1): 20-29, 2015.
- [木村邦博]
- Kimura, Kunihiro, “Sex-Based Discrimination Trends in Japan, 1965-2005: The Gender Wage Gap and the Marriage Bar,” pp.156-171 in *Discrimination in an Unequal World*, edited by Miguel Centeno and Katherine S. Newman. New York: Oxford University Press. 2010年9月
- Kimura, Kunihiro, “Gender-Based Discrimination, Inequality, and Marriage.” Pp. 1-13 in *Minorities and Diversity*, edited by Kunihiro Kimura. Melbourne: Trans Pacific Press. 2011年4月
- 木村邦博「知的柔軟性の国際比較」『文化理解のキーワード』（人文社会科学講演シリーズ VIII）、東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会（編）、東北大学出版会、69-105頁、2015年3月
- [浜田 宏]
- 浜田宏「相対リスク回避モデルの再検討—Breen and Goldthorpe モデルの一般化」『理論と方法』第24巻第1号、数理社会学会、57-76頁、2009
- 浜田宏「N人ジレンマの提携形ゲーム」『理論と方法』第24巻第2号、317-332頁、数理社会学会、2009
- Atsushi Ishida, Hiroshi Hamada, Kenji Kosaka. “Simulation Analysis of the Effects of the Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World.” *Kwansei Gakuin University Social Sciences Review*. Vol. 14: 1-20. 2009
- 浜田宏「差別をめぐる相互行為のダイナミクス—演繹的研究のコアとしての数理モデル」『フォーラム現代社会学』第9号、42-51頁、2010
- 浜田宏・七條達弘「異質な集団における相対的剥奪モデル」『理論と方法』第25巻第1号、107-123頁、2010
- Hamada, Hiroshi and Yusuke Hayashi, “Impact of Change in Household

- Composition on Poverty and Inequality in Japan,” Yoshimichi Sato and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Trans Pacific Press. 2011
- 浜田宏・石田淳「望ましい収入はどう決まるか？収入アスピレーション・レベルの最適化モデル」齊藤友里子・三隅一人（編）『現代の階層社会 3—流動化のなかの社会意識』東京大学出版:233-246、2011
- Hiroshi Hamada, 2012, “A Model of Class Identification: Generalization of the Fararo-Kosaka Model using Lyapounov's Central Limit Theorem,” *Kwansei Gakuin University School of Sociology Journal*. Vol.114:21-33.
- 塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏. 2012. 「ビネット調査による階層帰属メカニズムの検討」『理論と方法』52(Vol.27 No.2):243-258.
- 浜田宏. 2012. 「線形結合モデルは科学的説明たりうるか？—階層帰属意識研究における計量と数理の融合」『理論と方法』52(Vol.27 No.2):259-276.
- 浜田宏,2013, 「数理社会学の普及に関する数理社会的考察」『ソシオロジ』57(3):127-134, 2013.
- 浜田宏. 2013年「数理モデルによる不平等と主観的厚生分析」佐藤嘉倫・木村敏明（編）『不平等生成メカニズムの解明』第9章. ミネルヴァ書房
- 浜田宏・前田豊,「小集団実験による相対的剥奪モデルの検証」『理論と方法』55(Vol.29 No.1): 19-36, 2014年4月
- 浜田宏. 「貧しくても幸福になれるか」辻竜平・佐藤嘉倫（編）『ソーシャル・キャピタルと格差社会：幸福への計量社会的アプローチ』東京大学出版会. 2014年6月
- Ishida, Atsushi., Kenji Kosaka, and Hiroshi Hamada, “A Paradox of Economic Growth and Relative Deprivation.” *Journal of Mathematical Sociology*.(掲載決定), 2014,
- Kosaka, Kenji., Atsushi Ishida, and Hiroshi Hamada, 2013, “A formal-theoretic approach to China puzzles: An application of relative deprivation theory to 'unhappy growth' and differential migrant workers' subjective well-being.” 『中国都市研究』(掲載決定).

浜田宏．「人はどんなときに不満を感じるのか？ 相対的剥奪の数理モデル」盛山和夫（編）『モデルで読み解く公正と不平等』有斐閣（刊行予定）2014

浜田宏．「教育の普及は格差を解消させるのか？ 教育達成における出身階層間の不平等」盛山和夫（編）『モデルで読み解く公正と不平等』有斐閣（刊行予定）2014

浜田宏．2015年3月「相対的剥奪のメカニズム——人はどんなときに不満を感じるのか？」盛山和夫・浜田宏・武藤正義・瀧川裕貴．『社会を数理で読み解く——不平等とジレンマの構造』有斐閣:81-113.

浜田宏．2015年3月「教育機会の不平等」盛山和夫・浜田宏・武藤正義・瀧川裕貴．『社会を数理で読み解く——不平等とジレンマの構造』有斐閣:167-200.

[永吉希久子]

永吉希久子「呼び戻される「国民」—移民制度の変遷にみられる「統治性」、『生権力論の現在』檜垣立哉（編）、勁草書房、91-132頁、2011年2月

永吉希久子「シティズンシップ—誰が、なぜ外国人への権利付与に反対するのか？」、『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介（編）、勁草書房、90-116、2011年2月

Nagayoshi, Kikuko, “Cross-National Analysis of the Relationship between National Identity and Social Trust: Liberal Nationalism Reconsidered” 『大阪大学人間科学部紀要』37号、大阪大学人間科学研究科、21-40、2011年3月

Nagayoshi, Kikuko, “Support of Multiculturalism, but for Whom?: Effects of Ethno-National Identity on the Endorsement of Multiculturalism in Japan” *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 37(5), Routledge, 561-578, 2011年2月

Hjerm, Mikael and Nagayoshi, Kikuko, “The Composition of the Minority Population as a Threat: Can Real Economic and Cultural Threats Explain Xenophobia?”, *International Sociology*, 26 (6), International Sociological Association, 815-43, 2011年5月

宮田直子・永吉希久子、「仕事人間や会社人間だった中高年男性は社会参加できるのか」、『パネルデータでみる中高年の意識変容』、吉川徹（編）、ミネルヴァ書房、101-117、2012年1月

永吉希久子、「日本人の排外意識に対する分断労働市場の効果」『社会学評論』249号、1-17、2012年6月

永吉希久子・中室牧子、「移民の子どもの教育に関する一考察」『移動の時代を生きる』、大西仁・吉原直樹監修、東信堂、43-90、2012

永吉希久子、「スウェーデンの反差別法運用とその限界」『東北大学文学研究科 研究紀要』62号、187-208、2013年3月

永吉希久子、「制度が生み出す不平等—日本とスウェーデンの比較から」『不平等生成メカニズムの解明』、佐藤嘉倫・木村敏明（編）、ミネルヴァ書房、79-97、2013年3月

Nagayoshi, Kikuko, 2013, “Citizenship and Foreigner’s Rights in Japan,”

*Japanese Perceptions of Foreigners*, Shunsuke Tanabe (ed.), Trans Pacific Press, 56-60, 2013年10月

永吉希久子、「『共生の場』としての地域」『「地域」再考—復興の可能性を求めて』、東北大学大学院文学研究科出版企画委員会（編）、東北大学出版会、35-71、2014年3月

Nagayoshi, Kikuko and Sato, Yoshimichi, “Who Supports Redistributive Policies in Contemporary Japan? An Integrative Approach to Self-Interest and Trust Models,” *International Sociology*, 29, International Sociological

Association, 302-23, 2014年7月

永吉希久子、「外国籍者への権利付与意識の規定構造—潜在クラス分析を用いたアプローチ」『理論と方法』29(2): 343-59、2014年11月

永吉希久子、「多文化主義か同化主義か？—多文化主義の市民的徳性への影響の国際比較」田辺俊介編『民主主義の「危機」』勁草書房、205-36、2014年12月

[川嶋伸佳] (2012.4~2014.9)

川嶋伸佳「社会心理学から心の文化差へ」、サトウタツヤ・若林宏輔・木戸彩恵（編）『社会と向き合う心理学』、pp.21-32、2012年9月

川嶋伸佳、「ミクロ公正感と社会階層：ふさわしさ知覚の効果の検証」、『Center for the Study of Social Stratification and Inequality (CSSI)』

Working Paper Series』、No.3、2012年12月

川嶋伸佳・大淵憲一、「不平等と公正感」、佐藤嘉倫・木村敏明（編著）『不平等生成メカニズムの解明：格差・階層・公正』、pp.299-320、2013年3月

[大井慈郎] (2015.4～)

大井慈郎、「東南アジア都市化論の再構築に向けて — 人口移動による過剰都市化論の検討」『日本都市学会年報』48、印刷中、2015

## 1-2 著書・編著

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫（編）『現代日本の階層状況の解明—ミクローマクロ連結からのアプローチ』、科学研究費補助金研究成果報告書（全3分冊）、2011

Sato, Yoshimichi and Jun Imai (eds.), *Japan's New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2011

佐藤嘉倫・尾嶋史章（編）『現代の階層社会 1 格差と多様性』、東京：東京大学出版会、2011

Marc Humbert and Yoshimichi Sato (eds.), *Social Exclusion: Perspectives from France and Japan*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2012

佐藤嘉倫・木村敏明（編）『不平等生成メカニズムの解明—格差・階層・公正』、京都：ミネルヴァ書房、2013

佐藤嘉倫（監修）『社会階層調査研究資料集（全7巻・別冊2）：2005年SSM調査報告書』、東京：日本図書センター、2013

辻竜平・佐藤嘉倫（編）『ソーシャル・キャピタルと格差社会—幸福の計量社会学』、東京：東京大学出版会、2014.

小林盾・金井雅之・佐藤嘉倫・内藤準・浜田宏・武藤正義（編）『社会学入門—社会をモデルでよむ—』、東京：朝倉書店、2014.

James D. Wright (Editor-in-Chief), *International Encyclopedia of Social and Behavioral Sciences, 2nd Edition*, Elsevier, 2015. (Yoshimichi Sato, Sociology Section Co-editor)

[木村邦博]

Kimura, Kunihiro, ed. *Minorities and Diversity*. Melbourne: Trans Pacific Press. 2011

木村邦博（編）『変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成—学校生活と社会に対する高校生の意識調査報告書—』, 東北大学教育文化研究会, 2014年3月

[浜田宏]

盛山和夫・浜田宏・武藤正義・瀧川裕貴. 2015. 『社会を数理で読み解く——不平等とジレンマの構造』 有斐閣

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, “Reviews: Locating Science: Hiromi Mizuno, *Science for the Empire: Scientific Nationalism in Modern Japan*. Stanford, CA: Stanford University Press, 2009,” *International Sociology*, Vol. 25, 285-288, 2010

Sato, Yoshimichi, “Rational Choice Theory,” *Sociopedia*, 2010

佐藤嘉倫「現代日本の階層調査」日本社会学会社会学事典刊行委員会（編集）『社会学辞典』、378-379頁、丸善、2010

佐藤嘉倫「『思いつき』を大切に」, 『曙光（東北大学全学教育広報）』, No. 31, 8-9, 2011

佐藤嘉倫「社会階層・社会移動調査をめぐる国際比較の困難性と可能性—2005年SSM調査の経験から—」, 『社会と調査』, 第7号: 12-17, 2011

佐藤嘉倫「私はなぜ貧乏なのか?—社会階層論の根本問題とこれから」, 『UP』, No. 469: 7-12, 2011

佐藤嘉倫「公平な分配はいかにして社会にひろがるのか?—公平な分配とシミュレーション—」, 『学術の動向』, 17-2: 21-25, 2012

佐藤嘉倫「社会調査」, 「格差」, 「成層」, 「職歴移動」, 「SSM」, 見田宗介（編集顧問）、大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一（編集委員）『現代社会学事典』, 597-599頁, 173頁, 762頁, 675-676頁, 105頁, 東京: 弘文堂, 2012

佐藤嘉倫「数理社会学ワンステップアップ講座(5) プレゼンテーションの技法——日本語報告から英語報告まで」, 『理論と方法』, 27-2: 307-312, 2012

佐藤嘉倫「公平な分配はいかにして社会にひろがるのか？—公平な分配とシミュレーション—」, 宮島喬・船橋晴俊・友枝敏雄・遠藤薫 (編著) 『グローバリゼーションと社会学——モダニティ・グローバリティ・社会的公正』, 京都: ミネルヴァ書房, 265-270 頁, 2013

Sato, Yoshimichi, "Social Capital." Sociopedia, July, 2013.

[木村邦博]

木村邦博「階層意識」『統計応用の百科事典』、松原望・美添泰人 (編集委員長)、丸善出版、466-469 頁、2011 年 10 月

木村邦博 (翻訳) 『確率』、John Haigh 著、丸善出版、2015 年 9 月刊行予定

木村邦博「社会的分化とジニ係数」『社会学理論応用事典』、今田高俊 (編集委員長)、丸善出版、2015 年 10 月刊行予定

[浜田宏]

浜田宏「書評リプライ 武藤氏の書評に答える」『理論と方法』、第 24 巻第 1 号、139-141 頁、数理社会学会、2009

浜田宏「階層意識の数理社会学」日本社会学会社会学事典刊行委員会(編)『社会学事典』丸善株式会社、2010

浜田宏、「平等／不平等」「フォーマル・セオリー」「所得格差」「ジニ係数」「FK モデル」「アトキンソン尺度」「タイルの T」「ローレンツ曲線」「スタウファー」「ブードン」『現代社会学事典』弘文堂、2012

浜田宏、2015 年「実験シミュレーションによる展開」数土直紀 (編)『社会意識から見た日本—階層意識の新次元』有斐閣: 78-81.

[永吉希久子]

永吉希久子「外生変数／内生変数」、「確証的因子分析／探索的因子分析」、「構造方程式モデル」、「主成分分析」、「直接効果／媒介効果」大澤真幸・吉見俊哉・鷺田清一編、『現代社会学事典』、155 頁、174 頁、410 頁、641 頁、892 頁、弘文堂、2012

永吉希久子「コラム 福祉意識研究が示す階層意識研究の将来」数土直紀編『社会意識から見た日本—階層意識の新次元』有斐閣、140-2 頁、2015

永吉希久子「報告 2 RC05 Racism, Nationalism, and Ethnic Relations—ISA から学んだ民族関係研究における量的調査の今後」『社会と調査』14:

**1-4 口頭発表**

**(1) 国際学会**

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, "Social Networks, Utility Functions, and Social Capital," The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.

Sato, Yoshimichi, "Why Did Asian Sociologists Not Conceive "Social Capital"? Universalism versus Particularism," The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 11-17, 2010.

Sato, Yoshimichi, "The Emergence of Social Structure as A Micro-Macro Link: Social Networking and Beyond," The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.

Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," The 105th Annual Meeting of the American Sociological Association, Atlanta, August 14-17, 2010.

Sato, Yoshimichi, "New Middle Class at Risk in Japan?" The Second UC Riverside-Tohoku Joint Symposium, Tohoku University, November 19-20, 2010.

Sato, Yoshimichi, "Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo," The 10th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Kota Kinabaku, December 8-11, 2010.

Sato, Yoshimichi, "Institutions and Inequality in the Status Attainment Process: A Theoretical Note," The International Symposium on Risk, Social Stratification, and Changes in Institutions, Bryn Mawr College, February 3-4, 2011.

Sato, Yoshimichi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Westin

- Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi, "Japanese Youth without Bright Perspectives for Future,"  
The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by  
Young Scholars in Asia, Westin Sendai, January 29-30, 2011.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a  
Fluid Labor Market: The Case of Contemporary Japan," International  
Conference on Internal Cleavages and Social Peace in East Asia, Chungnam  
University, Daejeon, South Korea, June 24, 2011.
- Sato, Yoshimichi, "New Middle Class at Risk in Japan?" The 106th Annual  
Meeting of the American Sociological Association, Las Vegas, August 20-23,  
2011.
- Sato, Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Changing Jobs and Inequality in a Fluid  
Labor Market: The Case of Contemporary Japan," 台湾・中央研究院社会学  
研究所 October 27, 2011.
- Sato, Yoshimichi, "New Middle Class at Risk in Japan?" Joint Symposium of  
UC Riverside and the CSSI of Tohoku University, UC Riverside, February  
2-3, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "New Middle Class at Risk in Japan?" Workshop on the  
Frontiers of Social Research, The Chinese University of Hong Kong,  
February 13-14, 2012.
- Sato, Yoshimichi and Shin Arita, "Educational Return and Social Inheritance in  
Japan," International Comparative Workshop on Inequality in Educational  
Returns in 14 Countries European University Institute, Florence, June 21-22,  
2012.
- Sato, Yoshimichi, "Coverage of Social Capital and Utility Function of Actors  
Involved: Toward a Clearer Understanding of Functions of Social Capital,"  
The Second ISA Forum of Sociology, Buenos Aires, Argentina, August 1-4,  
2012
- Furusato, Yukari and Yoshimichi Sato, "A Paradoxical Relationship between  
Bonding Social Capital and Subjective Well-being," The Fifth Joint  
Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Denver, August  
16, 2012.

- Sato, Yoshimichi, "Who Become Liberalists? An Empirical Study of the Choice between Liberalism and Libertarianism," The 107th Annual Meeting of the American Sociological Association. Denver, August 17-20, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," International Symposium on Asian Perspectives on Social Stratification and Inequality, Tohoku University, October 27-28, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The 2012 Australian Sociological Association Annual Meeting, The St Lucia campus of The University of Queensland, November 26-29, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Social Stratification and Inequality in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Increasing Fluidity," The 2012 Australian Sociological Association Annual Meeting, The St Lucia campus of The University of Queensland, November 26-29, 2012.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The 7th International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, January 12-13, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," Joint Symposium of UC Riverside and CSSI, Tohoku University, Tohoku University, January 25-26, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," The Third ISA Conference of the Council of National Associations, Middle East Technical University, Ankara, May 13-16, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency in the Creation of Social Inequality," (March 18, 2013), Closed Workshop on Social Inequality in Japan: A Reassessment, DIJ (German Institute for Japanese Studies), March 18-19, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency: Theoretical First Step," Summer

- School, Stanford University, June 18-21, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Rational Choice in the Creation of Social Stratification," Section on Rationality and Society Pre-Conference. Advances in Rational Choice Theory and Social Research, New York, August 9, 2013.
- Nagayoshi, Kikuko and Yoshimichi Sato, "Who Supports Redistributive Policies in Contemporary Japan? Integrative Approach of Self-interest and Institutionalism Models," The 108th Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, August 10-13, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Difficulties in Comparative Studies of Social Stratification (tentative title)," International Conference on Survey Research Methodology, Academia Sinica, September 4-6, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," 2013 IOS-Tohoku Symposium on Social Change and Social Inequality in Taiwan and Japan, Academia Sinica, September 26-27, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Agency in the Creation of Social Inequality," VSJF Annual Conference 2013 on Inequality in Post-Growth Japan, Japanese-German Center Berlin, November 22, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," University of Hamburg, November 26, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Coverage of Social Capital and Utility Function of Actors Involved: Toward a Clearer Understanding of Functions of Social Capital," University of Duisburg-Essen, November 27, 2013.
- Sato, Yoshimichi, "Coverage of Social Capital and Utility Function of Actors Involved: Toward a Clearer Understanding of Functions of Social Capital," The 7th National Symposium for Sociology Graduate Students, Yonsei University, February 21, 2014.
- Sato, Yoshimichi, "Persistent Inequality between Regular and Non-regular Workers in Japan," 2014 International Symposium for Professional Scholars at Chung-Ang University: Multiple Crises and Sustainable Social Integration in Contemporary Societies, February 21, 2014.

- Sato, Yoshimichi, "Meta Rational Choice Analysis of Social Action: A Theoretical First Step," The XVIII ISA World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama, July 15, 2014.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Actors in the Creation of Social Inequality: A Rational Choice Approach to Inequality," The 109th American Sociological Association Meeting, San Francisco, August 16-19, 2014.
- Furusato, Yukari and Yoshimichi Sato, "Social Capital and Subjective Happiness," The 2014 ANPOR Annual Conference, Niigata, November 29-30, 2014.
- Sato, Yoshimichi, "Non-regular Workers Trapped in the Gap between Changing Reality and (Almost) Unchanged Institutions," French Society for Japanese Studies (SFEJ) Symposium "Japan in the beginning of the 21st century", December 12-13, 2014.
- Sato, Yoshimichi, "Institutions and Actors in the Creation of Social Inequality: A Rational Choice Approach to Inequality," The 1st East Asian Conference for Young Sociologists and the 9th National Conference for Sociology Graduate Students, Yonsei University, February 2-3, 2015.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Social Mobility: An Empirical Study of the Effect of Job Change on Trust," The 1st East Asian Conference for Young Sociologists and the 9th National Conference for Sociology Graduate Students, Yonsei University, February 2-3, 2015.
- Sato, Yoshimichi, "Are Asian Sociologies Possible?: Universalism and Particularism," The 1st East Asian Conference for Young Sociologists and the 9th National Conference for Sociology Graduate Students, Yonsei University, February 2-3, 2015.
- [木村邦博]
- Kimura, Kunihiro, "Explaining a Marriage Paradox: Call for the Computer Simulation Studies Based on a Simple Mathematical Model," Workshop on Social Theory and Social Computing, Honolulu, Hawaii, USA, 2010年5月22日
- Kimura, Kunihiro, "Social Stratification and Relative Risk Aversion in the Japanese Context," XVII World Congress of Sociology, International

- Sociological Association, Gothenburg, Sweden, 2010年7月17日
- Kimura, Kunihiro, "Can the Signaling Game Serve as a Model of Statistical Discrimination?" Pre-conference on Advances in Rational Choice Social Research at the 108th Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, USA, 2013年8月9日
- Kimura, Kunihiro, "Education, Occupation, and Intellectual Flexibility in the Japanese Context," 2013 IOS-Tohoku Symposium on Social Change and Social Inequality in Taiwan and Japan, Taipei, Taiwan, 2013年9月26日
- Kimura, Kunihiro, "Education, Employment, and Gender Role Attitudes of Japanese Married Women in the 21st Century: Declining Significance of Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction?" XVII World Congress of Sociology, International Sociological Association, Yokohama, Japan, 2014年7月15日
- [浜田宏]
- Hiroshi Hamada, "A Model of Class Differentials in Educational Attainment," 17th ISA world congress of sociology, Gothenburg, Sweden, July 14, 2010
- Hiroshi Hamada and Jae-Woo Kim, "Evolution of Cultural Groups from Parochial Cooperation: A Mathematical and Computational Study," 82nd Annual Pacific Sociological Association Meeting, Seattle, March 10-13, 2011.
- Jae-Woo Kim and Hiroshi Hamada, "Replicator Dynamic of Tag-based Prisoner's Dilemma," American Sociological Association Meeting, August 20, 2011, Las Vegas, NV.
- Ishida Atsushi, Kenji Kosaka, Hiroshi Hamada and Yutaka Maeda. 2012. "Economic Growth and Paradoxes of Relative Deprivation" The 40th World Congress of the IIS. Regular Session, "Emerging Frontiers of Relative Deprivation Theory," 16-19 Feb 2012. Delhi, India,
- Kosaka, Kenji, Atsushi Ishida, and Hiroshi Hamada, 2012, "A Formal Approach to the 'China Puzzles,'" The 12th Conference of The Asia Pacific Sociological Association, Manila University, Manila, Phillipines, 22-24 October 2012.

[永吉希久子]

Nagayoshi, Kikuko, 2010, "Effects of Multiculturalism Policies on Social Cohesion", Nordic Migration Conference 2010, Malmö University, Sweden, August 25-27, 2010

Nagayoshi, Kikuko, "The Effects of Group Positions on Individual Attitudes toward Immigrants", Joint Symposium of UC Riverside and CSSI Tohoku University, University of California Riverside, USA, February 1-3, 2012

Nagayoshi, Kikuko, Tanabe, Shunsuke and Hamada, Kunisuke, 2012, "The Effects of Group Positions on Individual Attitudes toward Immigrants: Analysis of Japanese Case", American Sociological Association 107<sup>th</sup> Annual Meeting, Colorado Convention Center & Hyatt Regency, USA, August 17-20, 2012

Nagayoshi, Kikuko, "Political Participation and Right Wing Attitudes in Japan", CSSI-IOS Symposium, Tohoku University, Japan, September 28-29, 2012

Nagayoshi, Kikuko, "Effects of Social Cleavages on Support for Welfare Reform", Joint Symposium of UC Riverside and CSSI, Tohoku University, Japan, January 25-26, 2013

Nagayoshi, Kikuko and Yoshimichi Sato, "Who Supports Redistributive Policies in Contemporary Japan? Integrative Approach of Self-interest and Institutionalism Models", American Sociological Association 108<sup>th</sup> Annual Meeting, Hilton New York Midtown and Sheraton New York Hotel and Towers, USA, August 10-13, 2013

Nagayoshi, Kikuko, "Economic Incorporation of High-Skilled Immigrants in Japanese Employment-Welfare System," BIGSSS International Conference 2014, The Atlantic Grand Hotel Bremen, Germany, June 12-13, 2014

Nagayoshi, Kikuko, Taki, Hirofumi, and Arita, Shin, "Transformation of Labor Market and Legitimacy of Income Inequality in Japan," 18th ISA World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama, Japan, July 16, 2014

Holbrow, Hilary J. and Kikuko Nagayoshi, "Economic Incorporation of High-Skilled Migrants in Japan: An Analysis of Employer-Employee Linked Survey Data," International Workshop, Japan's New

Immigrants: Capturing the Changing Ethno-Scape in a Globalizing Society, Waseda University, Japan, December 12-14, 2014

## (2) 国内学会

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫 「数理社会学は社会学研究に役立つのか?」, 第50回数理社会学会, 獨協大学, 2010年9月11日

佐藤嘉倫, 「SSM調査について」, 一般社団法人社会調査協会 特別シンポジウム, 如水会館, 2010年11月14日

佐藤嘉倫, 「不平等の現状とその評価—社会学の視点から」, 社会階層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か—日本の不平等再検討—」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「不平等の是正は可能か?—社会心理学の視点から」, 社会階層と不平等教育研究拠点・東京セミナーシリーズ 第2回公開シンポジウム「公正な社会は可能か—日本の不平等再検討—」, 東北大学東京分室, 2011年2月12日

佐藤嘉倫, 「公平な分配はどう社会に広がるのか?—コンピュータ・シミュレーションへの招待」, 日本学術会議社会学委員会社会理論分科会・公開シンポジウム「シミュレーションと社会—文理を結ぶ新しい方法論」, 日本学術会議大会議場, 2011年6月4日

古里由香里・佐藤嘉倫, 「結束的ソーシャルキャピタルと主観的幸福感のパラドキシカルな関係」, 第85回日本社会学会, 札幌学院大学, 2012年11月3日

Kobayashi, Jun, Mai Kagawa, and Yoshimichi Sato, “Structure of Labor Market in Japan: Complementing Roles of Human Capital and Social Capital,” 第56回数理社会学会大会, 関西学院大学, 2013年8月28日

Sato, Yoshimichi, “Toward Clearer Conceptualization and Theorization of Social Capital: Focusing on Four Aspects of the Concept,” 第86回日本社会学会大会, 慶應義塾大学, 2013年10月12-13日.

古里由香里・佐藤嘉倫, 「社会学からみた幸福と社会関係資本——社会関係資本と主観的幸福感」, ソーシャル・キャピタルワークショップ「社会

関係資本と幸福」, 日本大学法学部, 2015年3月13日.

[木村邦博]

余田翔平・木村邦博「現代高校生の規範意識—世代論か発達論か?—」、  
第59回東北社会学会大会(山形大学)、2012年7月16日

木村邦博・余田翔平「高校生の規範意識の測定と潜在クラス分析」第40回  
日本行動計量学会大会(新潟県立大学)、2012年9月14日

木村邦博「家族データの収集と分析—その意義と課題—」(特別セ  
ッション「家族データの収集と分析」)、第41回日本行動計量学  
会大会(東邦大学)、2013年9月4日

木村邦博「21世紀初頭における有配偶女性の性別役割意識—認知的不協  
和の終焉?—」日本社会心理学会第54回大会(沖縄国際大学)、2013  
年11月3日

木村邦博「ワーディングの問題に関する実験的調査—認知的アプローチ  
からの説明の可能性—」シンポジウム「質問紙の科学:その可能性と  
展望」(慶應義塾大学「思考と行動判断」研究拠点)、2014年1月11  
日

[浜田宏]

浜田宏「教育達成における階層間格差の分布関数モデル—IEOモデ  
ルとRRAモデルの統合と一般化」第50回数理社会学会(獨協大  
学)、2010年9月10日

高坂健次・石田淳・浜田宏。「相対的剥奪のパラドックス」第51回  
数理社会学会大会(於:沖縄国際大学)。2011年3月8日。

浜田宏「階層帰属意識関する地位継承モデルとFararo-Kosakaモデル  
の統合」第53回数理社会学会大会(於:鹿児島大学)。2012年  
3月14日。

浜田宏「階層の再生産と階層意識—線型回帰モデル再考」シンポジ  
ウム「階層帰属意識の数理と実証分析」統計数理研究所(共同利  
用研究公開研究会)2012年2月25日

塩谷芳也・金澤悠介・浜田宏。「ビネット調査による社会的地位評  
価の分析」シンポジウム「階層帰属意識の数理と実証分析」統計  
数理研究所(共同利用研究公開研究会)。2012年2月25日

浜田宏。「階層帰属意識に関する地位継承モデルとFararo-Kosakaモ

デルの統合」第 53 回数理社会学会大会（於：鹿児島大学）、2012 年 3 月 14 日。

浜田宏、「不平等と相対的剥奪の理論・実証連結——z-Tree による反復投資ゲーム実験」東北大学 GCOE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」構造と変動部門シンポジウム「相対的剥奪と不平等研究の新展開」仙台メトロポリタンホテル、仙台、2012 年 12 月 15 日

前田豊・浜田宏、「所得分布の生成と相対的剥奪の z-tree 実験」統計数理研究所共同利用研究公開研究会（SSP 研究会）、2012 年 12 月 26 日

浜田宏、2014 年 8 月 31 日「仮設住宅移転におけるグラフ理論の応用」第 58 回数理社会学会大会（於：日本女子体育大学）

浜田宏、2014 年 12 月 20 日「Mathematica による数理社会学の教育と研究」ウルフラムコンファレンス 2014（招待講演、於：早稲田大学）

[永吉希久子]

永吉希久子、「社会統合に対する多文化主義政策の影響—国際比較調査データの分析から」『関西社会学会第 61 回大会』、名古屋市立大学、2010 年 5 月 29-30 日

永吉希久子、「市民的特性に対する多文化主義政策の効果—ISSP2003・2004 を用いた国際比較研究」『2010 年度二次分析研究会 参加者公募型研究 成果報告会』、東京大学、2011 年 2 月 4 日

永吉希久子、「反移民意識に対する社会保障政策の影響—積極的社会保障政策と消極的社会保障政策の差に注目して」『第 84 回日本社会学会大会』、関西大学、2011 年 9 月 17-18 日

永吉希久子、「外国人に対する権利付与への支持の規定要因—社会的権利と文化的権利の差に注目して」『第 53 回数理社会学会』、鹿児島大学、2012 年 3 月 14-15 日

永吉希久子、「反差別法運用における集団間格差—スウェーデンの平等オンブズマンを事例として」、第 85 回日本社会学会、札幌学院大学、2012 年 11 月 3 日

永吉希久子、「労働者の再分配政策支持に対する構造改革の影響」、第 64

回関西社会学会大会、大谷大学、2013年5月18日  
永吉希久子、「外国籍者への権利付与意識の規定要因—意識の多様性に注目して」、第56回数理社会学会大会、関西学院大学、2013年8月27日  
永吉希久子、「新聞記事における『外国人』表象」、第57回数理社会学会大会、山形大学、2014年3月7日  
永吉希久子、「大企業における『外国人職業ニッチ』の形成要因と所得への影響」、第65回関西社会学会大会、富山大学、2014年5月25日  
伊藤理史・永吉希久子、「生活保護不信の規定要因」、第12回福祉社会学会大会、東京大学、2014年6月28日  
永吉希久子、「在日韓国人青年の被差別体験と否定的自己イメージ」第30回日本解放社会学会大会、関西学院大学、2014年9月7日  
永吉希久子・田辺俊介・濱田国佑「排外意識の規定要因の集団間比較」第87回日本社会学会大会、神戸大学、2014年11月23日  
永吉希久子・多喜弘文・有田伸「『望ましい所得』格差と不平等」第59回数理社会学会大会、久留米大学、2015年3月14日  
[川嶋伸佳] (2012.4～)  
川嶋伸佳「多元的不公正感が抗議行動の実施に与える影響：社会経済的地位に基づく検討」、東北心理学会第66回大会・新潟心理学会第49回大会合同大会、新潟大学、2012年7月14日  
川嶋伸佳、メディアへの接触が多元的不公正感に与える影響、社会心理学会第53回大会、つくば国際会議場、2012年11月18日  
川嶋伸佳・林洋一郎・大淵憲一、「職場における不公正経験の特徴の検討」、東北心理学会第67回大会、東北工業大学八木山キャンパス、2013年5月12日  
川嶋伸佳・林洋一郎・大淵憲一 (2013) . 職場の内集団および自己に対する不公正な処遇が精神的健康に与える影響. 社会心理学会第54回大会ポスター発表 沖縄国際大学 11月2日.  
川嶋伸佳・大淵憲一 (2014) . 社会階層とミクロ不公正感：社会的比較の効果の検討. 日本社会心理学会第55回大会. ポスター発表 北海道大学 7月27日.

## 2 教員の受賞歴（2010～2015年5月20日）

### 2014年度

[佐藤嘉倫]

第13回日本NPO学会優秀賞受賞

## IV 教員による競争的資金獲得（2010～2015年度）

### (1) 科学研究費補助金

#### 2010年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費1360万円、間接経費408万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」（2009（平成21）年度—2012（平成24）年度）、直接経費2,400千円、間接経費720千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」（2009年（平成21）—2011年（平成23年度）

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：高坂健次（関西学院大学）「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」（2008（平成20）年度—2010（平成22）年度）

#### 2011年度

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」（2009（平成21）年度—2012（平成24）年度）、直接経費2,400千円、間接経費720千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」（2009年（平成21）—2011年（平成23年度）

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹（大阪大学）「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費300万円、間接経費90万円（2011年（平成23）—2015年（平成27年度）

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：石田淳（関西学院大学）「グローバル化下の不平等社会における相対的剥奪—理論・実証的研究の刷新」（2011（平成 23）年度—2013（平成 25）年度）

[永吉希久子]

研究代表者 研究活動スタートアップ支援 「移民統合政策が移民の社会参加に与える影響についての実証研究」、直接経費 70 万円、間接経費 21 万円（2011（平成 23）年度-2012（平成 24）年度）

## 2012 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」、直接経費 310 万円、間接経費 93 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」（2009（平成 21）年度—2012（平成 24）年度）、直接経費 3,300 千円、間接経費 990 千円

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹（大阪大学）「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費 300 万円、間接経費 90 万円（2011 年（平成 23）—2015 年（平成 27 年度）

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：石田淳（関西学院大学）「グローバル化下の不平等社会における相対的剥奪—理論・実証的研究の刷新」直接経費 50 万円、間接経費 15 万円（2011（平成 23）年度—2013（平成 25）年度）

[永吉希久子]

研究代表者 研究活動スタートアップ支援 「移民統合政策が移民の社会参加に与える影響についての実証研究」、直接経費 70 万円、間接経費 21 万円

## 2013 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「移動レジームの動態に着目した社会階層と雇用・生活リスクの融合的研究」、直接経費 300 万円、間接経費 90 万

円

研究分担者 特別推進研究 研究代表者：白波瀬佐和子（東京大学）「少  
子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合  
的研究」、直接経費 30 万円、間接経費 9 万円

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹（大阪大学）「現代日本  
における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費 300  
万円、間接経費 90 万円（2011 年（平成 23）－2015 年（平成 27 年度）

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：石田淳（関西学院大学）「グローバ  
リゼーション下の不平等社会における相対的剥奪—理論・実証的研究  
の刷新」直接経費 50 万円、間接経費 15 万円（2011（平成 23）年度－2013  
（平成 25）年度）

[永吉希久子]

研究代表者 若手研究(B) 「反外国人意識形成メカニズムに対するミク  
ストメソッド研究」、直接経費 50 万円、間接経費 15 万円（2013（平成  
25）年度-2015（平成 27）年度）

研究分担者 基盤研究(B) 「現代日本のナショナリズムの実証的解明」、  
直接経費 10 万円、間接経費 3 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「価値意識と階層構造の変容にかんする比較  
社会学的研究」、直接経費 15 万円、間接経費 5 万円

#### 2014 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「移動レジームの動態に着目した社会階層と  
雇用・生活リスクの融合的研究」、直接経費 377 万円、間接経費 48 万  
円

研究分担者 特別推進研究 研究代表者：白波瀬佐和子（東京大学）「少  
子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合  
的研究」、直接経費 50 万円、間接経費 15 万円

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹（大阪大学）「現代日本  
における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費 90  
万円、間接経費 27 万円（2011 年（平成 23）－2015 年（平成 27 年度）

研究代表者 若手研究(B) 「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」、直接経費 300 万円、間接経費 90 万円 (2013 (平成 25) 年度-2015 (平成 27) 年度)

研究分担者 基盤研究(B) 「現代日本のナショナリズムの実証的解明」、直接経費 10 万円、間接経費 3 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「価値意識と階層構造の変容にかんする比較社会学的研究」、直接経費 15 万円、間接経費 5 万円

[永吉希久子]

研究代表者 若手研究(B) 「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」、直接経費 220 万円、間接経費 66 万円 (2013 (平成 25) 年度-2015 (平成 27) 年度)

研究分担者 基盤研究(B) 「現代日本のナショナリズムの実証的解明」、直接経費 10 万円、間接経費 3 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「価値意識と階層構造の変容にかんする比較社会学的研究」、直接経費 15 万円、間接経費 5 万円

## 2015 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(B) 「アジア諸社会における人口変動と移動レジームの比較分析」、直接経費 310 万円、間接経費 93 万円

研究分担者 特別推進研究 研究代表者：白波瀬佐和子 (東京大学) 「少子高齢化からみる階層構造の変容と格差生成メカニズムに関する総合的研究」、直接経費 100 万円、間接経費 30 万円

研究分担者 基盤研究(A) 研究代表者：小林盾 (成蹊大学) 「少子化社会におけるライフコース変動の実証的解明：混合研究法アプローチ」、直接経費 8 万円、間接経費 2.4 万円

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(S) 研究代表者：吉川徹 (大阪大学) 「現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明」、直接経費 50 万円、間接経費 15 万円 (2011 年 (平成 23) - 2015 年 (平成 27 年度))

研究代表者 挑戦的萌芽研究 「実験・数理モデルによる理論社会学の刷新」 直接経費 50 万, 間接経費 15 万 (2015 年 (平成 27) - 2017 年 (平成 29 年度))

[永吉希久子]

研究代表者 若手研究(B) 「反外国人意識形成メカニズムに対するミクスドメソッド研究」、直接経費 30 万円、間接経費 10 万円 (2013 (平成 25) 年度-2015 (平成 27) 年度)

研究分担者 基盤研究(B) 「現代日本のナショナリズムの実証的解明」、直接経費 10 万円、間接経費 3 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「価値意識と階層構造の変容にかんする比較社会学的研究」、直接経費 15 万円、間接経費 5 万円

研究分担者 基盤研究(B) 「アジア諸社会における人口変動と移動レジームの比較分析」、直接経費 20 万円、間接経費 6 万円

## (2) その他

### 2010 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

申請者 公益財団法人野村財団国際交流 (海外派遣) 「日本の流動化する労働市場と転職をめぐる階層格差の分析—第 105 回アメリカ社会学会大会における論文報告と諸活動—」、20 万円

[木村邦博]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 11850 万円、間接経費 0 万円

研究担当者 学術調査官受託研究「社会学に関する最新の学術動向の調査研究」直接経費 65 万円

### 2011 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7 万円、間接経費 0 万円

研究代表者 公益財団法人村田学術振興財団研究助成「グローバリゼーションの進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動に関する融合的研究」、200万円

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7万円、間接経費 0万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7万円、間接経費 0万円

[永吉希久子]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9616.7万円、間接経費 0万円

#### 2012年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1万円、間接経費 0万円

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1万円、間接経費 0万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1万円、間接経費 0万円

[永吉希久子]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1万円、間接経費 0万円

[川嶋伸佳]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 9881.1万円、間接経費 0万円

#### 2013年度

#### 2014年度

[佐藤嘉倫]

共同主催者 知のフォーラムプログラム「技術変化が社会移動・所得分配

に及ぼす影響に関する理論的・実証的研究：東アジアの移動格差・所得格差問題を中心として」、357.7万円

#### 2015年度

[佐藤嘉倫]

共同主催者 知のフォーラムプログラム「技術変化が社会移動・所得分配に及ぼす影響に関する理論的・実証的研究：東アジアの移動格差・所得格差問題を中心として」、557万円

### V 教員による社会貢献（2010～2015年5月20日）

#### （1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

佐藤嘉倫

1996年6月－現在 東北地方ダム管理フォローアップ委員会委員

2006年8月20日－現在 日本学術会議連携会員

2008年8月1日－現在 先端科学（FoS）シンポジウム事業委員会専門委員

2009年12月1日－2010年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

2009年12月1日－2010年11月30日 文部科学省 科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者

2009年12月1日－2011年11月30日 科学研究費 人文・社会系委員

2009年12月1日－2011年11月30日 科学研究費 研究成果公开发表委員

2010年10月1日－2010年11月30日 科研費 「特定領域研究（がん分野）」事後評価委員

2010年12月1日－2011年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員

浜田宏

2010年8月1日－2012年7月31日 文部科学省学術調査官

#### （2）公開講座等の講師

佐藤嘉倫

2010年4月9日 東北大学リベラルアーツサロン 講師 「公平な分

配はどう社会に広がるのか？ コンピュータ・シミュレーションへの招待」

2010年4月11日 財団法人メンタルケア協会 第120回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2010年8月5日 Tohoku University Summer Program 2010  
Lecturer “An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness.”

2011年8月1日 Tohoku University Summer Program 2011  
Lecturer “An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness.”

2011年10月2日 財団法人メンタルケア協会 第130回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2012年3月13日 第53回数理社会学会大会ワンステップアップセミナー「プレゼンテーションの技法——日本語報告から英語報告まで」（鹿児島大学）

2012年5月20日 財団法人メンタルケア協会 第131回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2012年7月10日 Tohoku University Summer Program 2011 Lecturer “An Agent-based Model of the Diffusion of Fairness.”

2012年9月5日 ELyT School in Sendai 2012 “Stability and Increasing Fluidity of the Social Stratification System in Contemporary Japan.”

2012年10月6日 東北大学仙台セミナー「絆と社会——東日本大震災の教訓」鼎談（里見進総長、寺島英弥河北新報社編集委員と）東北大学ホームカミングデーの一環

2013年4月14日 財団法人メンタルケア協会 第148回メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2014年4月8日 山形県立酒田東高等学校宿泊研修「平和と貧困」

2014年4月27日 財団法人メンタルケア協会 メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

2015年4月12日 財団法人メンタルケア協会 メンタルケア・スペシャリスト養成講座基礎課程（仙台会場） 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

木村邦博

2010年7月21日 宮城県高校教育課 高大連携事業 地域開催公開講座 平成22年度 Sanuma Summer University（宮城県佐沼高等学校）、  
「血液型性格学の流行を行動科学で考える」

2013年5月11日 東北大学文学研究科と市民のセミナー 第12期 有備館講座 「文化理解（解釈）のキーワード」 第1回（大崎市岩出山公民館） 「知的柔軟性の国際比較」

2014年6月20日 平成26年度宮城県高等学教頭・副校長会大崎地区研究協議会講演 「現代高校生の知的柔軟性」

2014年10月28日 平成26年度宮城県高等学校社会科教育研究会第29回例会（公民部会）講演 「変動期における高校生のソーシャルスキルと格差問題」

浜田宏

2015年5月20日 高大連携事業による出張講義（「行動科学でみる社会」於：宮城県泉高等学校）

永吉希久子

2012年9月1日 第5期斎理蔵の講座 講師 「外国人とともに生きる一地域における多文化共生を考える」

### （3）NPO・NGO 法人・民間企業との協力関係等

木村邦博

2009年4月－2013年3月 東北工業大学高等学校評価委員（委員長）

2009年9月－2011年3月 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』専門査読委員

2010年5月－2013年3月 宮城県宮城広瀬高等学校学校評議員

2011年12月－2013年11月 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』専門査読委員

2013年8月－2015年3月 仙台城南高等学校外部評価委員

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

佐藤嘉倫

2006年1月－現在 Editorial Advisory Board, *Equal Opportunities International*（2010年より *Equality, Diversity and Inclusion* に改名）

2006年7月－現在 国際社会学会理事

2006年7月－2010年7月 国際社会学会合理的選択部会長

2008年7月14日－現在 日本社会学会世界社会学会議組織委員

2009年12月－2012年11月 日本社会学会国際化戦略特別委員会委員

2010年1月－現在 Editorial board, *British Journal of Management*

2010年7月－現在 国際社会学会合理的選択部会理事

2010年7月－現在 国際社会学会概念・用語分析部会副会長（アジア担当）

2010年8月－2011年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会最優秀論文賞選考委員長

2010年8月－2011年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会評議員

2010年9月 日本行動計量学会第38回大会企画委員

2011年3月－現在 Editorial board, *Bangladesh Sociological Studies*

2011年8月－2012年8月 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会長

2012年3月－現在 International advisory board, *The Journal of Asian and African Studies*

2012年8月－現在 アメリカ社会学会「合理性と社会」部会評議員

2012年11月－現在 日本社会学会理事

2012年11月－現在 Deputy Editor, *International Journal of Japanese Sociology*

2013年3月－現在 Editorial board, *International Sociology*

2013年3月－現在 Editorial board, *Contemporary Japan*

2013年7月－現在 東北社会学会理事

木村邦博

2007年10月－2011年9月 日本教育社会学会編集委員

2009年4月－2015年3月 日本行動計量学会欧文機関誌編集委員

2009年7月－2011年7月 東北社会学会理事

2012年4月－2015年3月 日本行動計量学会広報委員会委員  
2013年9月－2014年9月 日本行動計量学会第42回大会実行委員長

浜田宏

2009年4月－2011年3月 数理社会学会理事（研究理事）  
2010年4月－2012年3月 日本社会学会編集委員会専門委員  
2011年4月－2013年3月 数理社会学会理事（『理論と方法』編集委員会委員長）  
2011年4月－2013年3月 数理社会学会研究活動委員  
2015年4月－2017年3月 数理社会学会理事（会計理事）

永吉希久子

2012年4月－2012年3月 日本社会学会選挙管理委員  
2013年4月－現在 社会調査士協会選挙管理委員  
2015年4月－現在 数理社会学会編集委員  
2015年4月－現在 東北社会学会理事（開催校）

## Ⅶ 教員の教育活動

### （１）学内授業担当（2015年度）

#### 1 大学院授業担当

教授 佐藤嘉倫

数理行動科学研究演習Ⅰ 「社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル」

数理行動科学研究演習Ⅱ 「エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明」

社会行動科学特論Ⅰ 「リスクと防災の社会学」

計量行動科学特論Ⅱ 「格差・不平等・リスクの社会学」

計量行動科学研究演習Ⅴ（松崎瑠美助教と共同開講） 「リスクと社会的な不平等」

課題研究（行動科学）

教授 木村邦博

計量行動科学研究演習Ⅰ 「「家族構造と子ども」の計量分析」

計量行動科学研究演習Ⅱ 「社会調査法への認知科学的アプローチ」

課題研究（行動科学）

准教授 浜田宏

社会行動科学特論 I 「数理社会学と確率論」

数理行動科学研究演習 III 「社会学の理論と実証」

数理行動科学研究演習 IV 「Mathematica による数理社会学」

課題研究（行動科学）

准教授 永吉希久子

計量行動科学研究演習 III 「行動科学の基礎概念」

計量行動科学研究演習 IV 「行動科学の計量分析」

課題研究（行動科学）

## 2 学部授業担当

教授 佐藤嘉倫

行動科学概論 「ミクロ-マクロ問題入門」

行動科学概論 「ゲーム理論入門」

行動科学演習 「社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル」

行動科学演習 「エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明」

行動科学各論 「リスクと防災の社会学」

行動科学各論 「格差・不平等・リスクの社会学」

人文社会序論（浜田宏准教授と共同開講） 「行動科学で解き明かす社会」

教授 木村邦博

行動科学概論 「社会調査の基礎」

行動科学概論 「社会調査の実際」

人文統計学 「統計学の基礎」

人文統計学 「推測統計と多変量解析の基礎」

准教授 浜田宏

行動科学基礎演習 「実例で学ぶ行動科学」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎：数理・計量社会学」

行動科学演習 「社会学の理論と実証」

行動科学演習 「Mathematica による数理社会学」

行動科学各論 「数理社会学と確率」

人文社会序論（佐藤嘉倫教授と共同開講） 「行動科学で解き明かす  
社会」

准教授 永吉希久子

行動科学演習 「社会意識」

行動科学演習 「行動科学の計量」

行動科学基礎実習 「社会調査演」

行動科学基礎実習 「多変量解」

英文原書講読

### 3 共通科目・全学科目授業担当

准教授 永吉希久子

基礎ゼミ 「街を歩く、見る、書く一街歩きからの行動科学」

#### (2) 他大学への出講 (2010~2015年5月20日)

佐藤嘉倫

2007年4月-2012年9月 放送大学

2010年12月 名古屋大学非常勤講師

2011年5月-6月 インドネシア大学大学院客員教授

2012年10月20日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「人はなぜ援助するのか一人々を災害ボランティアに駆り立てたもの」 (オムニバス授業)

2013年4月-現在 統計数理研究所客員教授

2013年10月19日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「人はなぜ援助するのか一人々を災害ボランティアに駆り立てたもの」 (オムニバス授業)

2014年11月15日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「人はなぜ援助するのか一人々を災害ボランティアに駆り立てたもの」 (オムニバス授業)

2015年5月 フランス国立社会科学高等研究院日仏財団客員教授

木村邦博

2012年11月24日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社

会学」「復興政策形成の現状と可能性—政治・行政・社会運動—」(オムニバス授業)

2015年4月—8月 宮城大学事業構想学部 社会科学総論

浜田宏

2010年8月 大阪大学大学院「数理社会学特講」

2012年12月1日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「優先的に住むのは誰か—仮設住宅の配分を巡る効率と公正—」(オムニバス授業)

2013年12月20日 学都仙台コンソーシアム 復興大学 「復興の社会学」「復興支援におけるマッチング問題」(オムニバス授業)

永吉希久子

2011年10月 津田塾大学「Japanese Society」(オムニバス授業)

2015年9月— 東北学院大学「統計的指向の基礎」

川嶋伸佳(2012.4～)

2012年4月—現在 東北文化学園大学「人格心理学」

2012年9月—現在 東北文化学園大学「社会心理学」

2013年4月—現在 放送大学宮城学習センター「初歩からのパソコン」

大井慈郎(2015.4～)

2015年4月—現在 山形県立米沢女子短期大学「現代社会論」